

## 第2章 こども・子育てを取り巻く現状と課題

### 1 津野町の統計データからみる現状

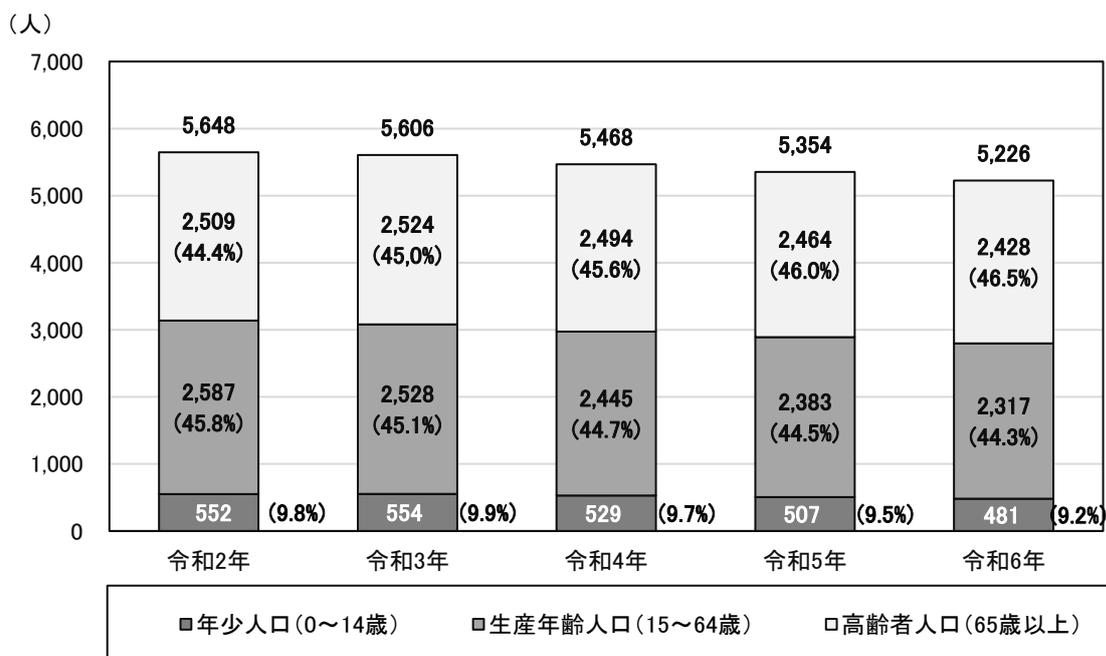
#### (1) 人口等の動向

##### ① 人口の推移

本町の総人口は令和6年で5,226人となっており、この5年間で422人の減少となっています。

年齢3区分別の人口割合の推移をみると、「年少人口(0～14歳)」と「生産年齢人口(15～64歳)」の割合が減少し、「高齢者人口(65歳以上)」の割合が増加しています。その中で、「年少人口(0～14歳)」は10%未満で推移しており、少子化の影響が見受けられます。

##### ■ 年齢3区分別人口の推移



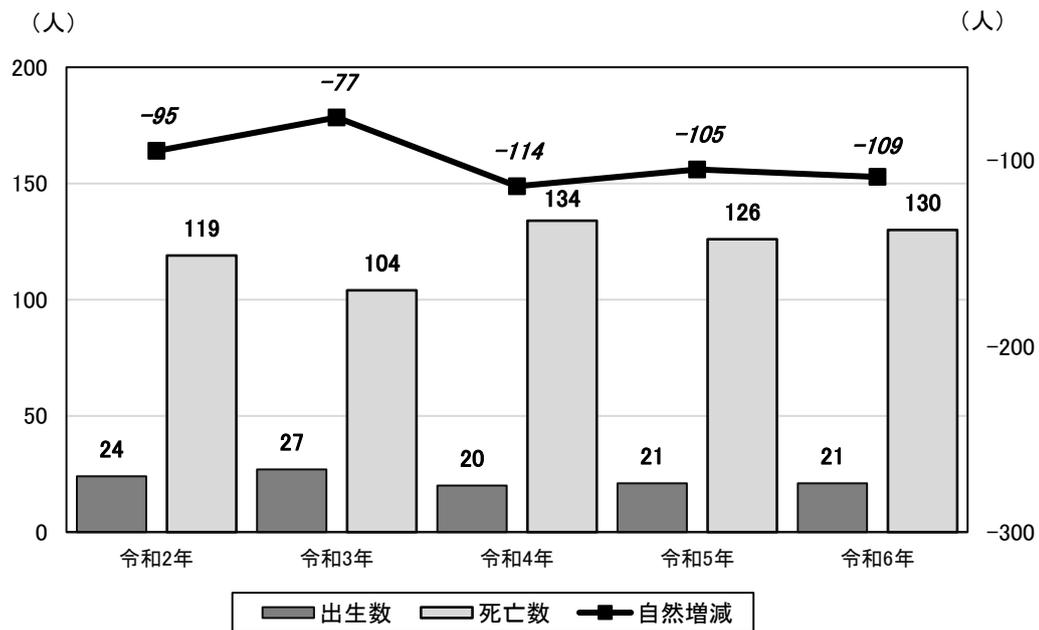
資料：住民基本台帳人口（各年10月1日時点）

## ② 自然動態と社会動態

本町の出生数は、令和4年以降横ばい状態となっており、令和6年で21人となっています。死亡数は、令和3年から令和4年にかけて30人増加し134人となり、以降横ばい状態となっています。また、合計特殊出生率についてみると、全国平均、高知県平均と比較して高い水準にあることがわかります。

転入と転出についてみると、令和4年以降は転出数が転入数を上回る転出超過となっており、社会減が続いています。

### ■ 出生数と死亡数の推移



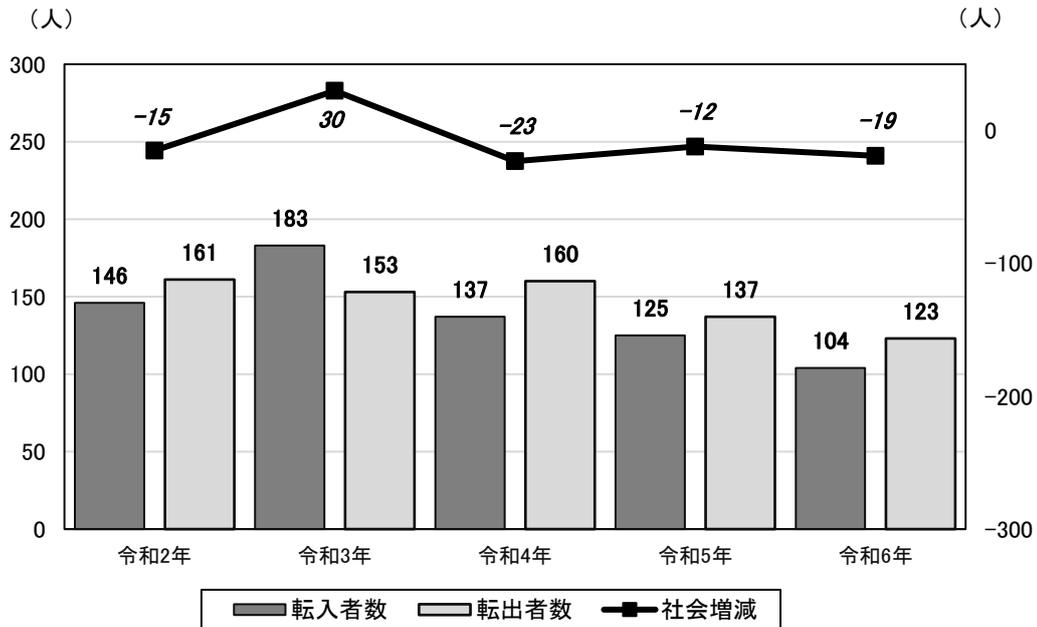
資料：町民課（各年10月1日）

### ■ 合計特殊出生率

	平成27年	令和2年
津野町	1.61	1.57
高知県	1.48	1.44
全国	1.43	1.33

資料：厚生労働省 人口動態保健所・市区町村別統計

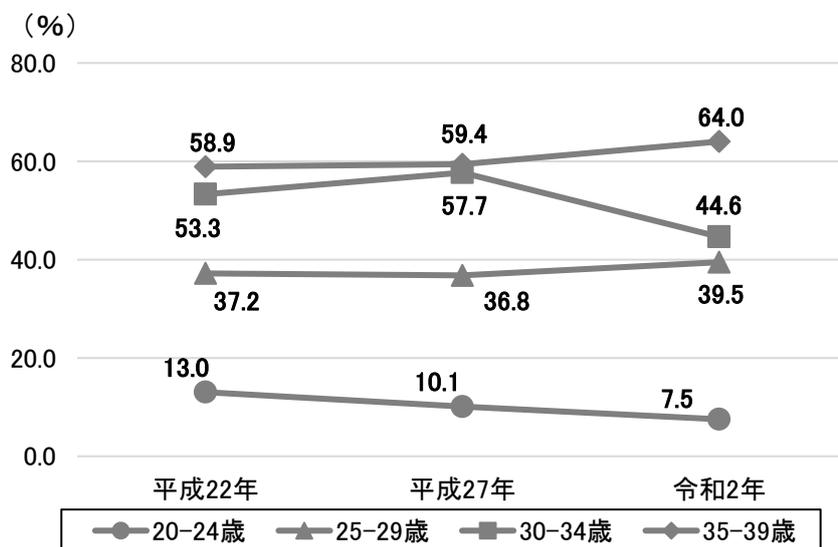
## ■転入数と転出数の推移



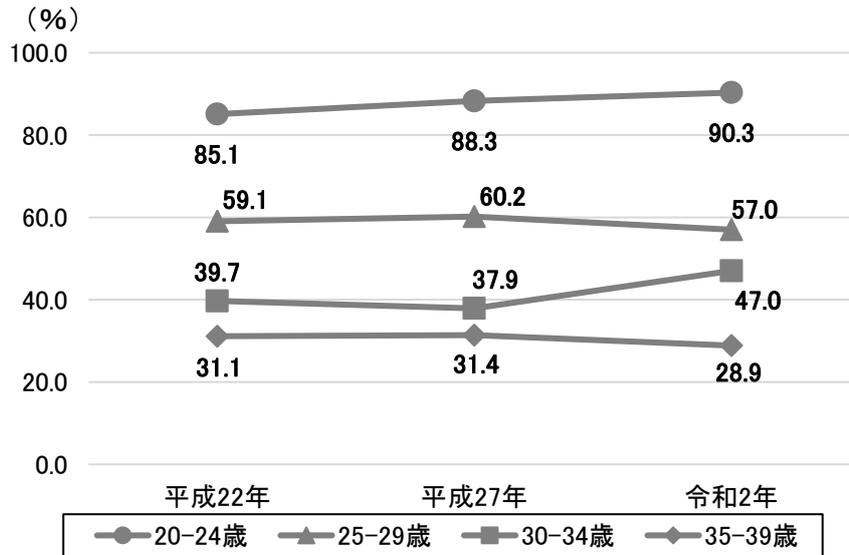
## ③ 有配偶率と未婚率の状況

有配偶率は平成 27 年と比較すると、「20-24 歳」、「30-34 歳」で減少しています。未婚率は「20-24 歳」が増加傾向にあり、令和 2 年では 9 割以上となっています。

## ■有配偶率の推移



## ■未婚率の推移



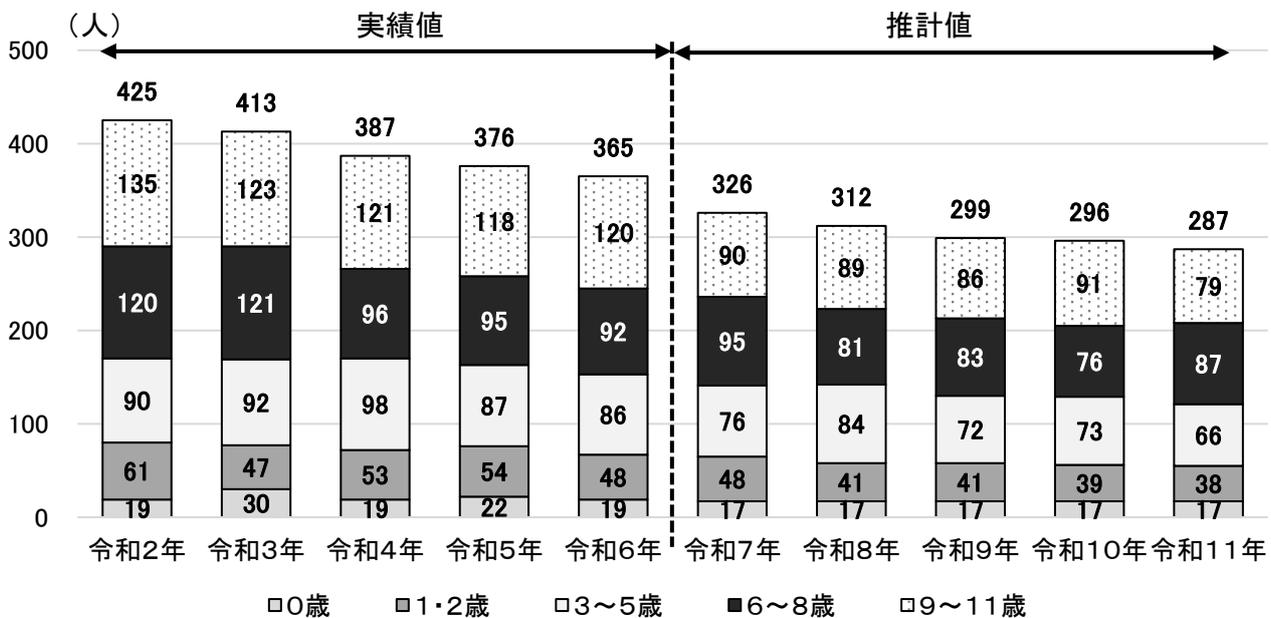
資料：国勢調査（各年10月1日）

## ④人口推計

本町における12歳未満のこどもの人口減少は進んでおり、令和2年から令和6年にかけて60人減少し、365人となっています。

今後の推計値においても人口減少がさらに進み、令和11年には287人と令和6年と比較して78人の減少が見込まれています。

## ■こどもの人口の推移



資料：住民基本台帳人口（各年10月1日時点）をもとにコーホート変化率法で算出

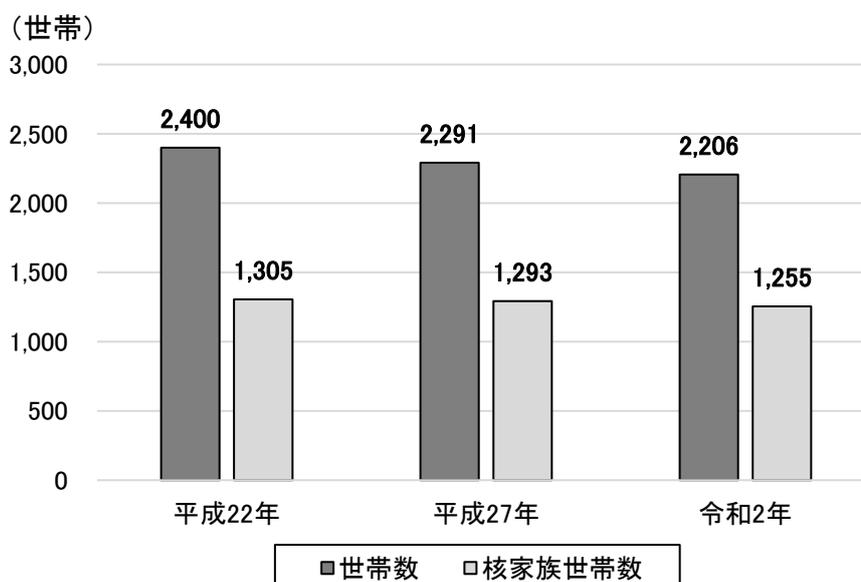
## (2) 世帯・就労の状況

### ① 世帯の状況

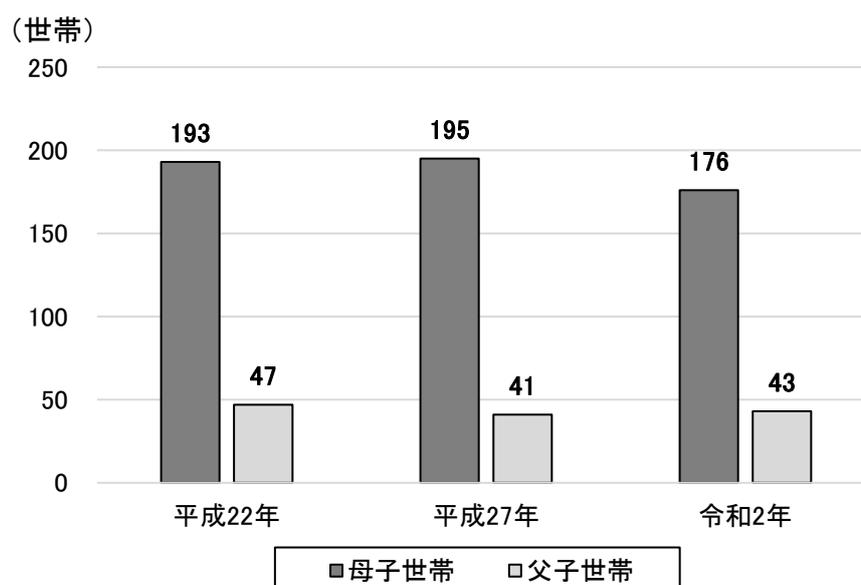
世帯数についてみると、令和2年は2,206世帯となっています。平成22年と比較すると、194世帯が減少しています。そのうち核家族世帯数は、令和2年は1,255世帯となっており、平成22年と比較して50世帯が減少しています。

ひとり親世帯数についてみると、令和2年は母子世帯が176世帯、父子世帯が43世帯となっています。

#### ■世帯数と核家族世帯数の推移



#### ■ひとり親世帯数の推移

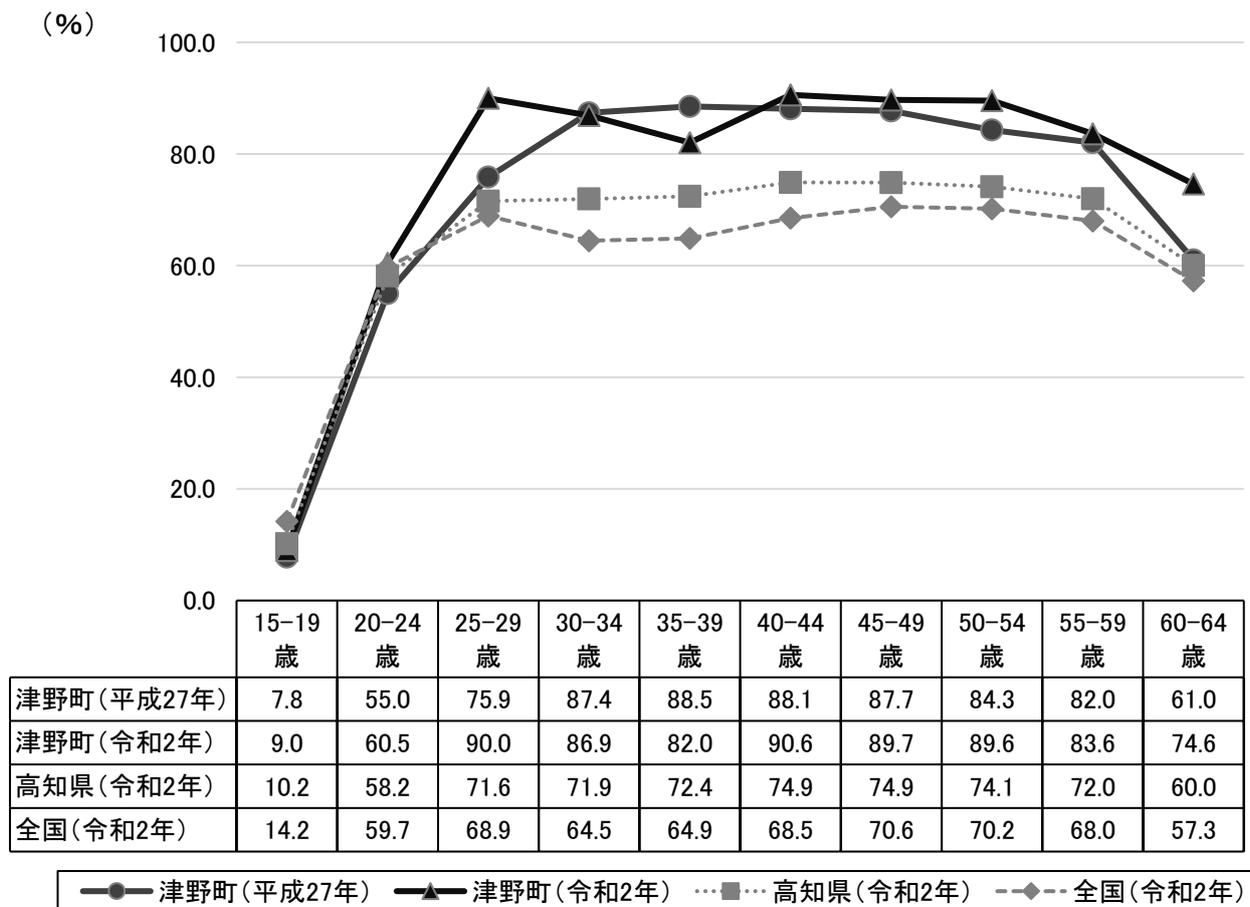


## ②就労の状況

女性の年齢階層別就業率について、全国と比較すると、20歳～64歳までの年齢階層は全国結果を上回っており、本町における女性の就業率が高いという傾向がみられます。また、県との比較でも年齢階層別就業率が比較的高くなっています。

本町の平成27年の結果と比較すると、30代で減少し、40代で増加するM字になっています。

### ■女性の年齢階層別就業率の比較



資料：国勢調査（各年10月1日）

### ■25～44歳女性の就業率

	女性人口	女性就業者数	就業率
津野町	369人	320人	86.7%
高知県	65,011人	47,421人	72.9%
全国	13,861,783人	9,248,551人	66.7%

資料：国勢調査（各年10月1日）

### (3) 認定こども園・小学校・中学校の状況

認定こども園の設置数について、令和6年4月1日時点で、本町では認定こども園を2か所設置しています。

児童数について、令和2年度以降横ばい状態となっています。

小学生児童数について、令和2年度以降一貫して減少傾向となっています。

中学生生徒数について、令和4年度に137人に増加して以降は減少傾向となっています。

#### ■認定こども園の児童数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
にじいろ園	97人	95人	99人	98人	99人
さくらんぼ園	46人	44人	47人	42人	40人
合計	143人	139人	146人	140人	139人

資料：教育委員会

#### ■小学校の児童数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
葉山小学校	123人	115人	104人	100人	137人
精華小学校	55人	54人	43人	42人	
中央小学校	81人	83人	78人	70人	71人
合計	259人	252人	225人	212人	208人

資料：教育委員会

#### ■中学校の生徒数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
葉山中学校	74人	81人	94人	95人	88人
東津野中学校	46人	45人	43人	33人	31人
合計	120人	126人	137人	128人	119人

資料：教育委員会

## 2 アンケート調査結果

### (1) 子どもの成長と子育て支援に関するアンケート調査（ニーズ調査）

#### ■ 調査の目的

本調査は、「第3期津野町子ども・子育て支援事業計画」の基礎資料として、教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握し、本町で確保すべき教育・保育・子育て支援に関する「量の見込み」を算出するため、津野町内の未就学児童・小学生児童の保護者の方を対象にアンケート（ニーズ）調査として実施しました。

#### ■ 調査概要

調査地域	津野町全域	
調査期間と対象者	調査期間	令和6年2月1日～令和6年2月16日
	未就学児童保護者	津野町内在住の0～6歳の未就学の子どもがいる世帯
	小学生児童保護者	津野町内の小学校に通う小学2年生子どもがいる世帯
抽出方法	調査対象者全数	
調査方法	未就学児童：学校配布・回収 小学生児童：学校配布・回収	
配布数	未就学児童：184件	小学生児童：28件
回収数・率	未就学児童：163件・88.6% 小学生児童：26件・92.9%	

- ・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。このことは、本報告書の分析文章、グラフ及び表においても反映しています。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフ及び表中に「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・グラフ及び表中のn（number of case）は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を現しています。

■ 調査結果

子どもの育ちをめぐる環境について

○子どもをみてもらえる親族・知人

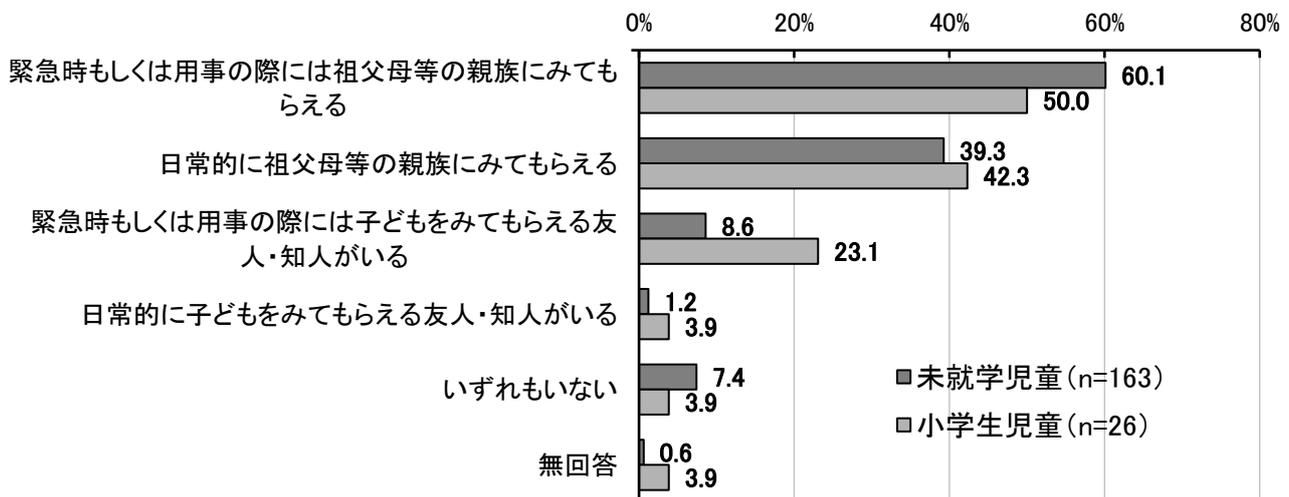
- ・未就学児童、小学生児童ともに「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高く、未就学児童 60.1%、小学生児童 50.0%となっています。
- ・また、「いずれもない」は未就学児童で 7.4%、小学生児童で 3.9%となっています。

○子どもをみてもらっている状況

- ・未就学児童、小学生児童を比較すると、未就学児童をみてもらう方が親族・知人への負担が大きく、心配・不安であるという状況がみてとれます。

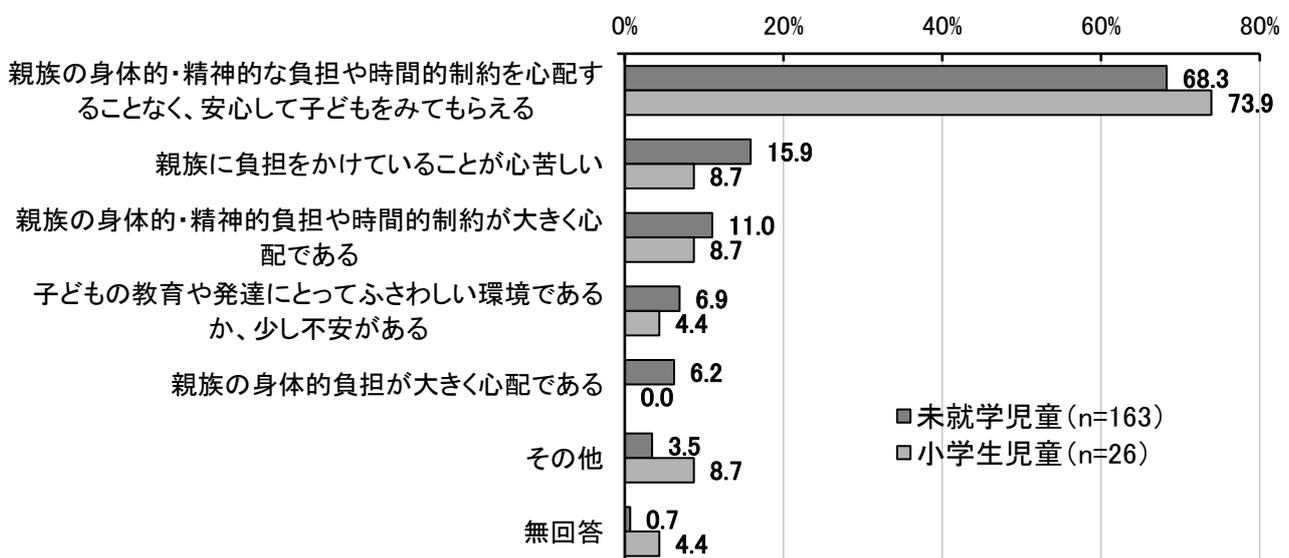
問 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(複数回答)

【未就学児童・小学生児童】



問 日頃、お子さんをみてもらっている状況についてお答えください。(複数回答)

【未就学児童・小学生児童】



## 保護者の就労状況について

### ○母親の就労状況

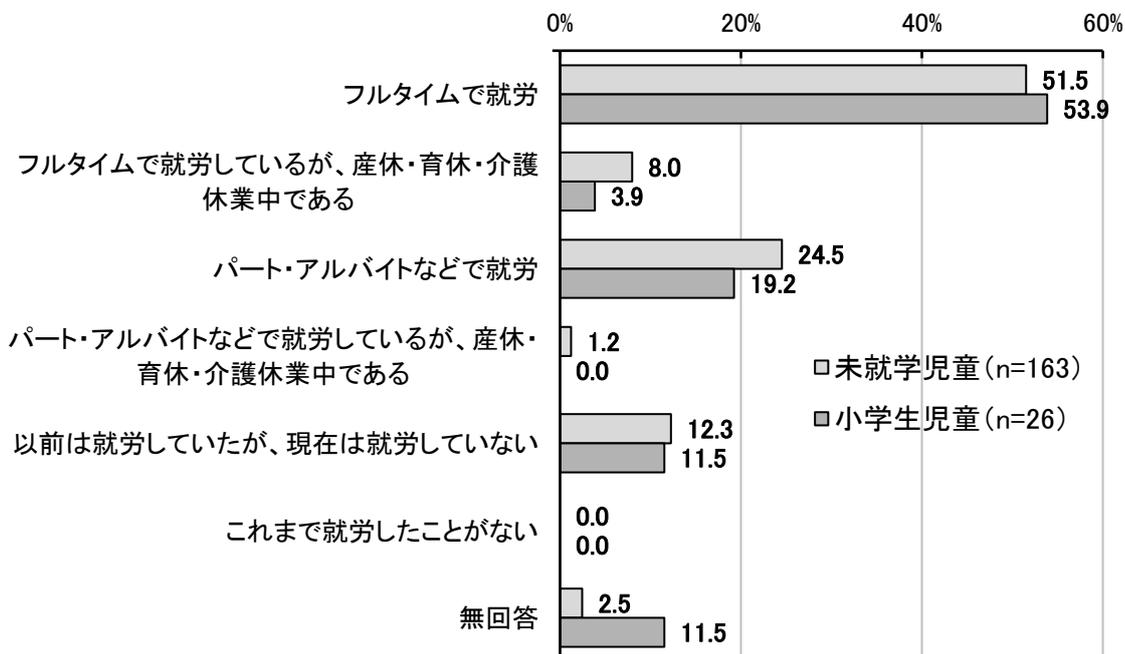
- ・未就学児童、小学生児童ともに半数以上がフルタイムで就労しています。

### ○育児休暇の取得

- ・父親で「取得していない」が79.1%となっています。
- ・また、その理由として、「仕事が忙しかった」、「収入減となり、経済的に苦しくなる」、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が主な理由として挙げられます。

問 お子さんの母親の現在の就労状況をうかがいます。(単数回答)

### 【未就学児童・小学生児童】

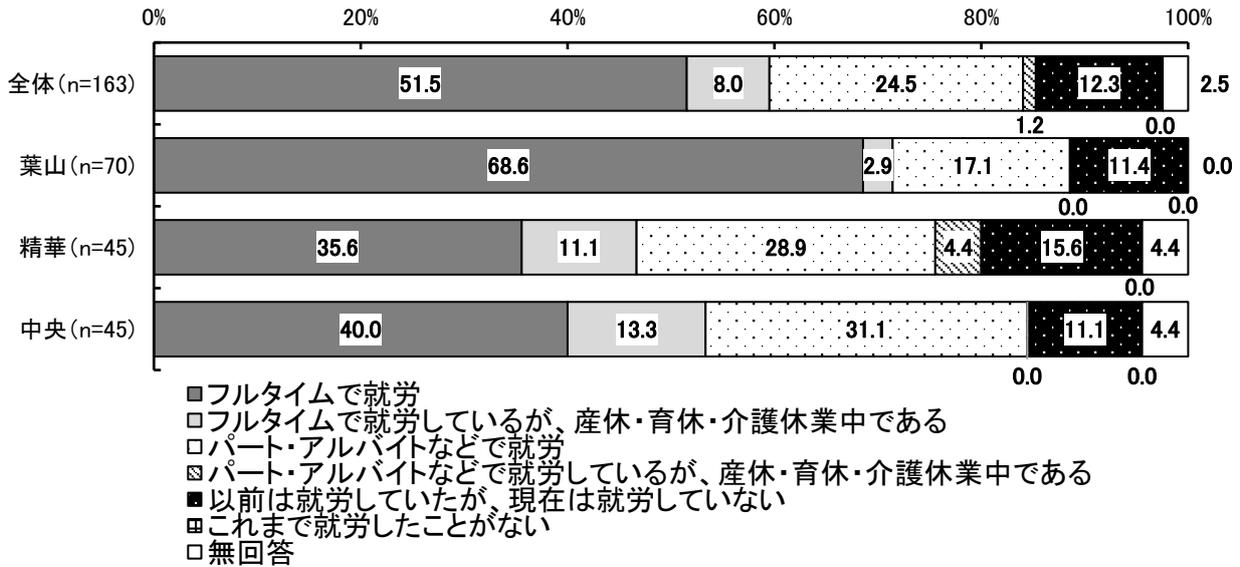


○未就学児の母親の就労状況

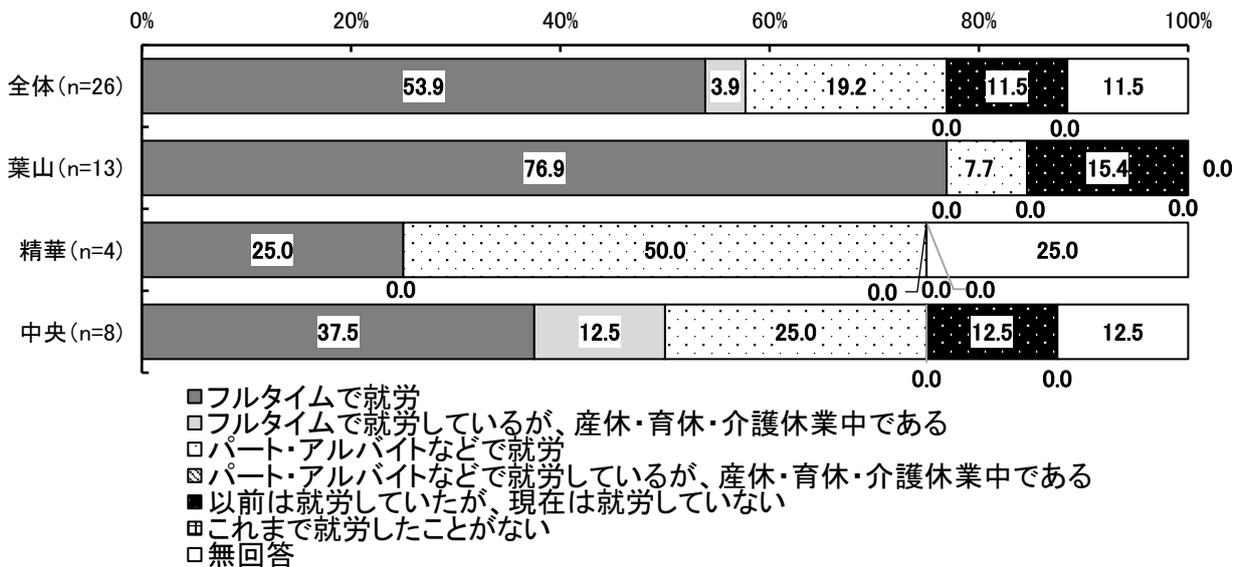
- ・「フルタイムで就労」は、葉山地区 68.6%で、精華地区 35.6%、中央地区 40.0%と比べて高くなっています。
- ・「パート・アルバイトなどで就労」は、精華地区 28.9%、中央地区 31.1%となっています。

問 お子さんの母親の現在の就労状況をうかがいます。(単数回答)

【未就学児童：全体・地区別】

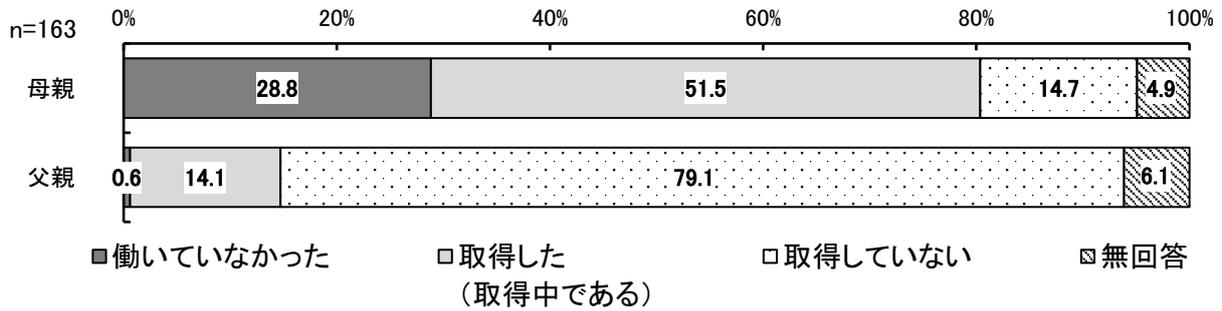


【小学生児童：全体・地区別】



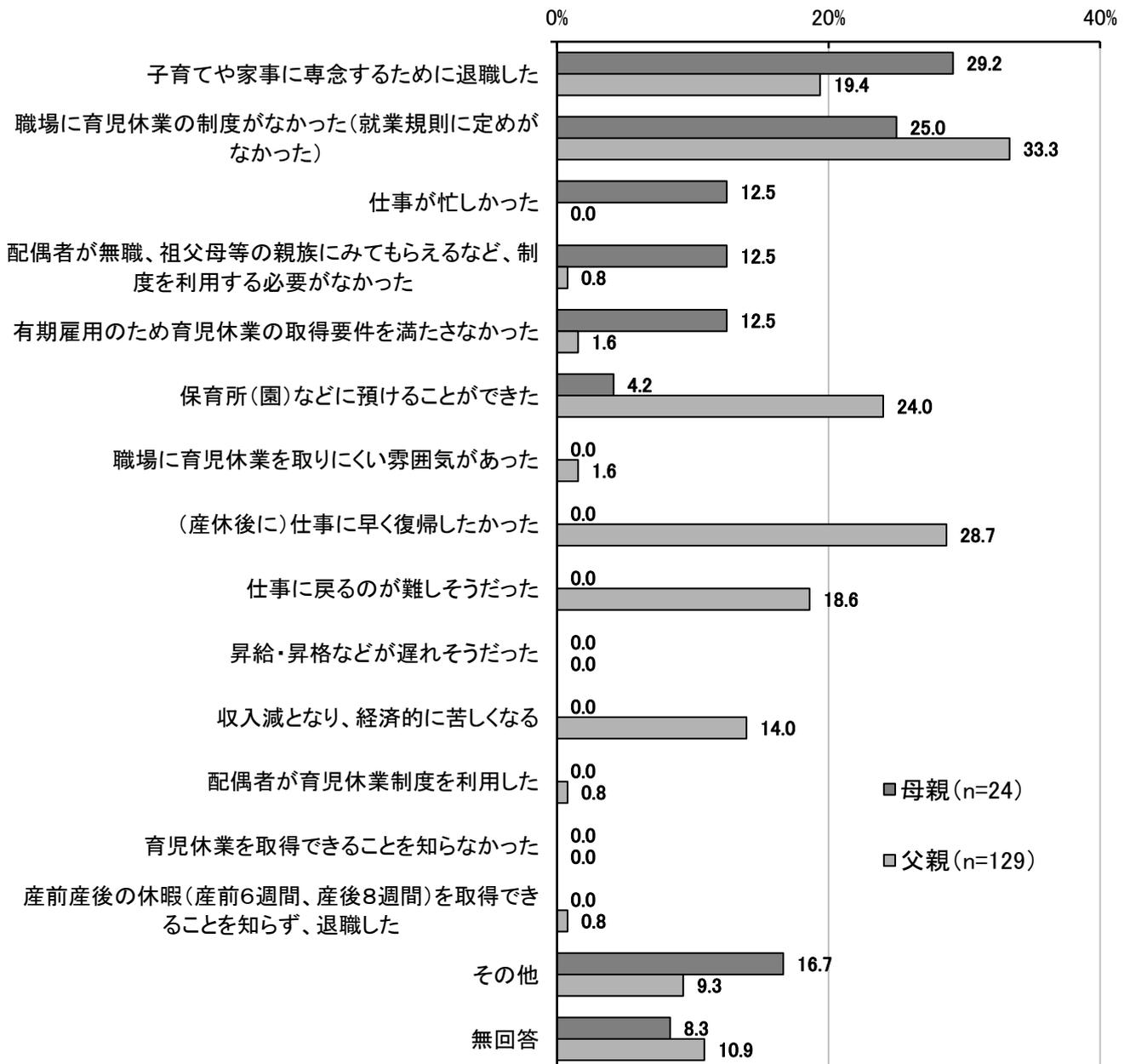
問 お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。  
(単数回答)

【母親・父親】 ※未就学児童のみ



育児休業を取得していない理由 (複数回答)

【母親・父親】 ※未就学児童のみ



## 平日の「定期的な教育・保育事業」の利用状況について

### ○平日の教育・保育事業の利用状況

- ・「利用している」86.5%、「利用していない」12.3%となっています。
- ・地区別にみると、葉山地区91.4%で最も高く、精華地区80.0%と最も低くなっています。

### ○平日の教育・保育事業を利用している理由

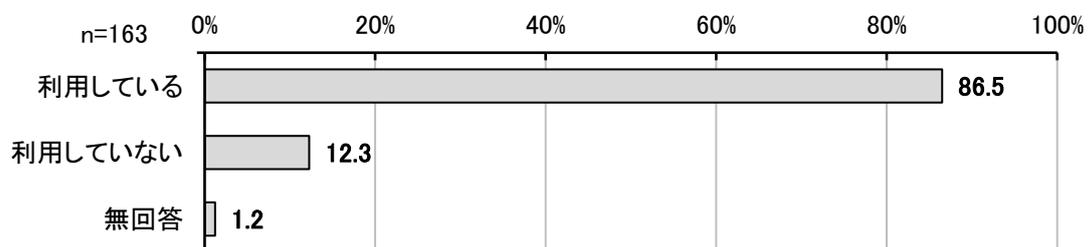
- ・「保護者が、現在就労しているため」が92.9%、「子どもの教育や発達のため」が63.8%となっています。

### ○平日の教育・保育事業を利用していない理由

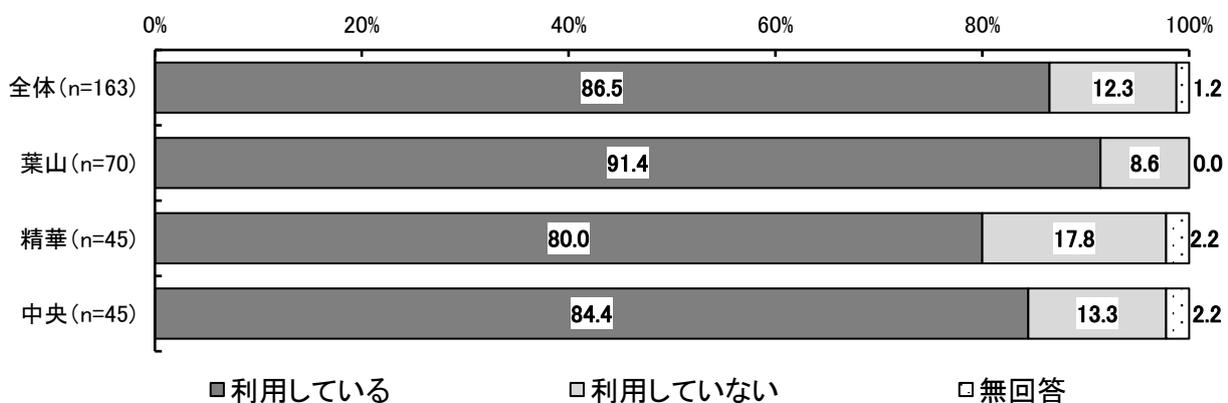
- ・「子どもが小さいため、( )歳くらいになったら利用したい」が55.0%、「利用する必要がないため」が30.0%となっています。
- ・子どもが2歳になったタイミングでの利用を考えている保護者が多い状況がみてとれます。

問 お子さんは現在、認定こども園などの「定期的な教育・保育の事業」を利用していますか。(単数回答)

※未就学児童のみ

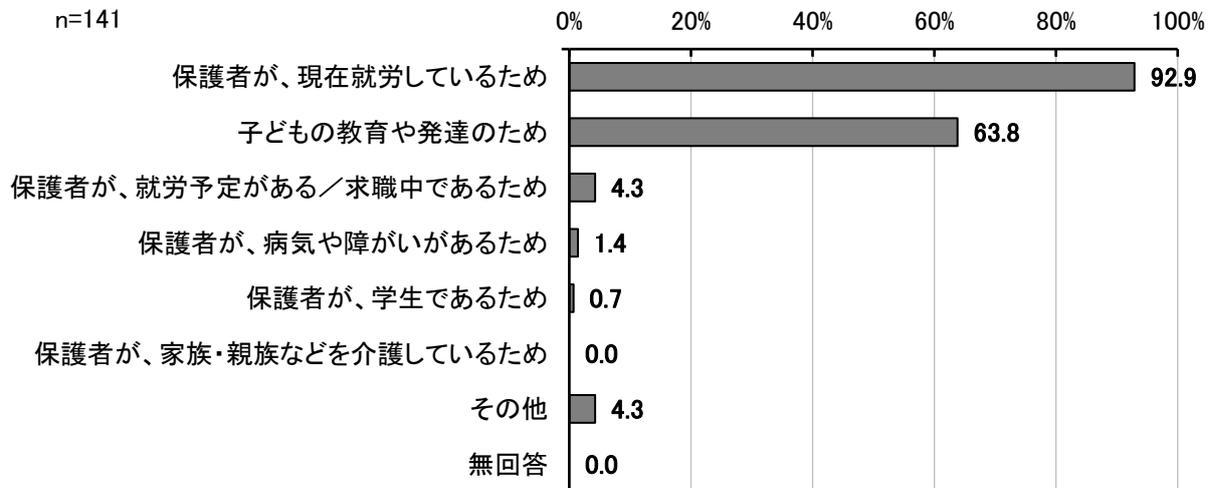


### 【未就学児童：全体・地区別】



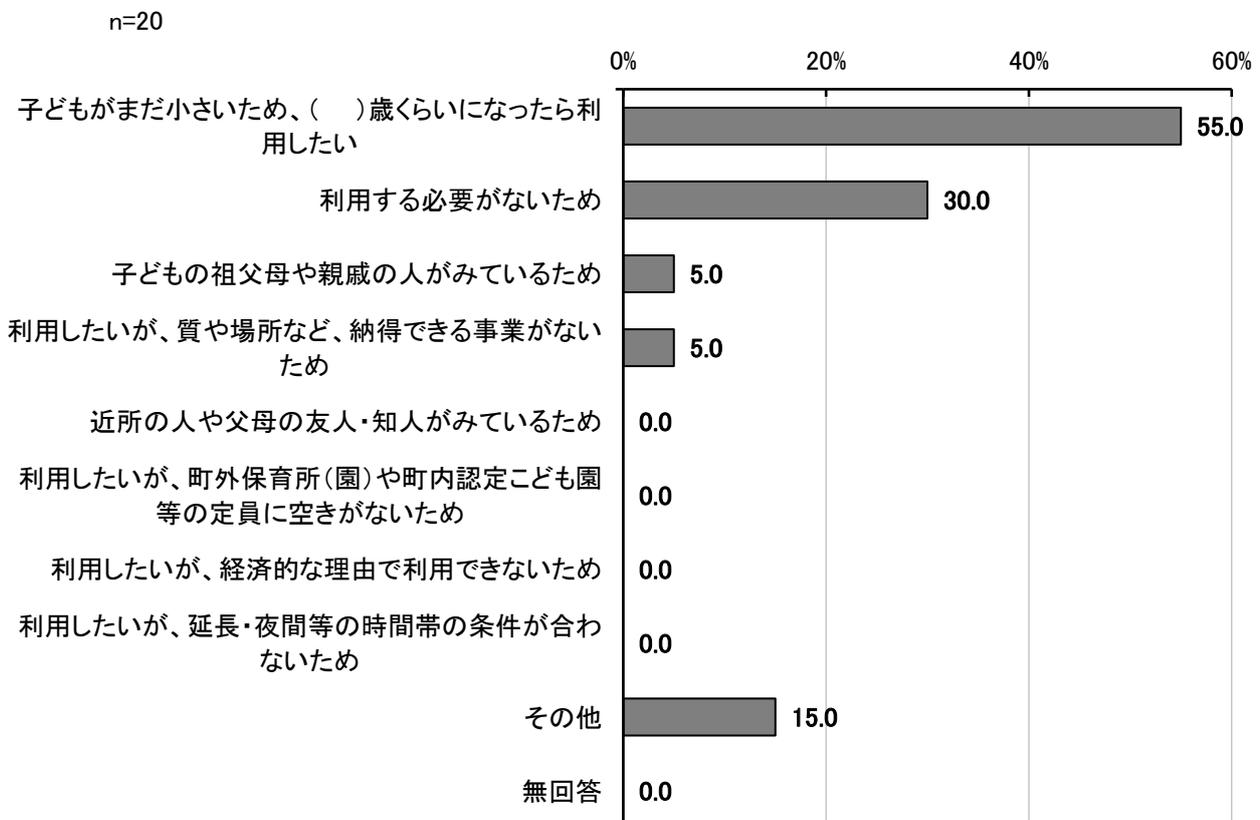
問 平日に「定期的な教育・保育事業」を利用されている理由は何ですか。(複数回答)

※未就学児童のみ



問 「定期的な教育・保育事業」を利用していない理由は何ですか。(複数回答)

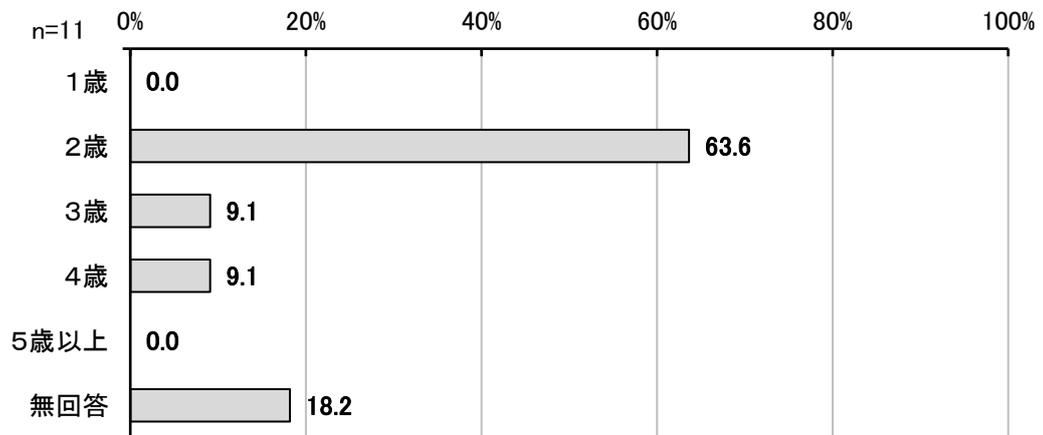
※未就学児童のみ



子どもがまだ小さいため、( ) 歳くらいになったら利用しようと考えている。

(単数回答：数字を記入)

※未就学児童のみ



## お子さんの病気の際の対応について

### ○子どもの病気の際の対処方法

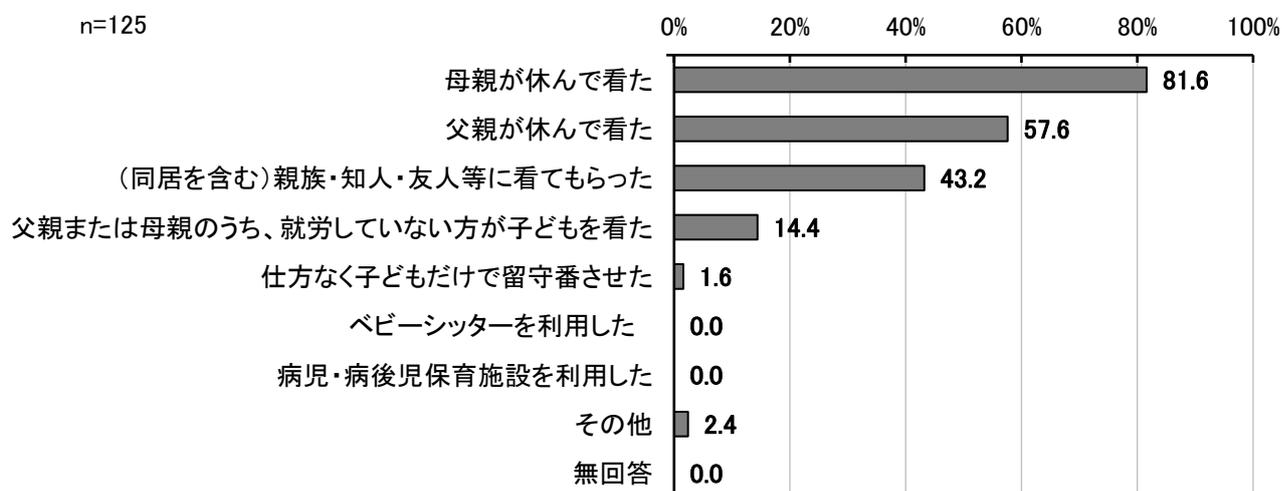
・「母親が休んで見た」が81.6%と最も高く、次いで「父親が休んで見た」が57.6%となっています。

### ○仕事を休んで子どもを看ることができない理由

・「休假日数が足りていないなどの理由で休めない」27.8%が最も高くなっています。

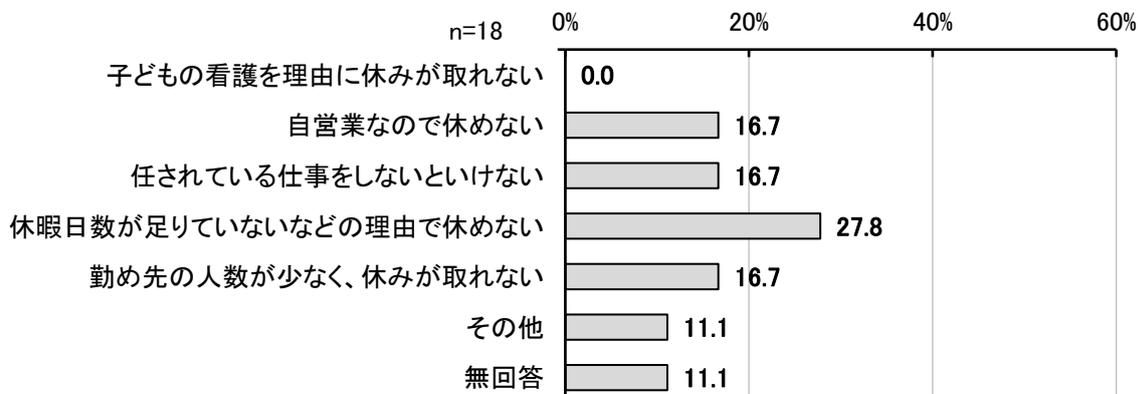
問 お子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業（保育所等）が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法はどれですか。（複数回答）

※未就学児童のみ



仕事を休んで子どもを看ることができない理由（単数回答）

※未就学児童のみ



## 不定期な教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

○この1年間で、子どもを泊りがけて保護者以外にみてもらった経験

・「あった」19.0%、「なかった」79.1%となっています。

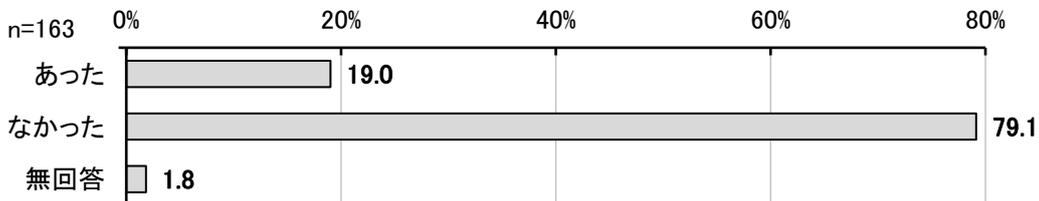
○子どもを泊りがけて保護者以外にみてもらわなければならなかった時の対処方法

・「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が93.6%となっており、ショートステイや託児所・ベビーシッターの利用はみられませんでした。

問 この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気等)により、お子さんを泊りがけて保護者以外にみてもらわなければならないことがありましたか。

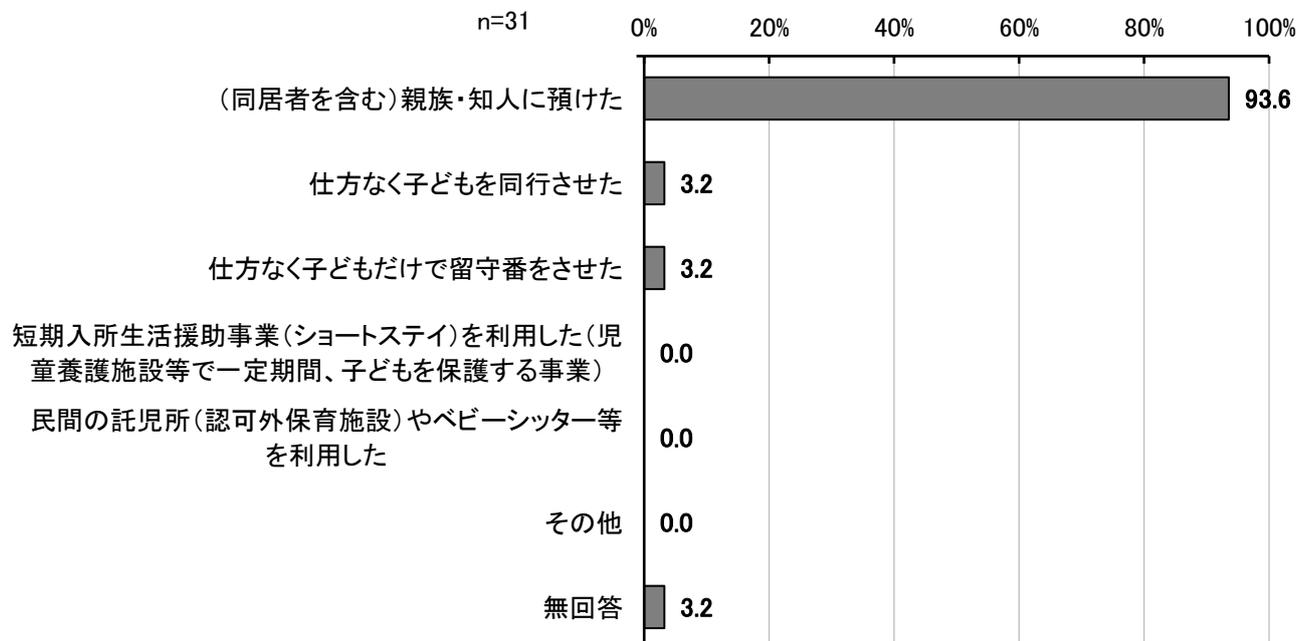
(単数回答)

※未就学児童のみ



その時の対処方法 (複数回答)

※未就学児童のみ



## 放課後の過ごし方について

### ○平日の放課後の過ごし方

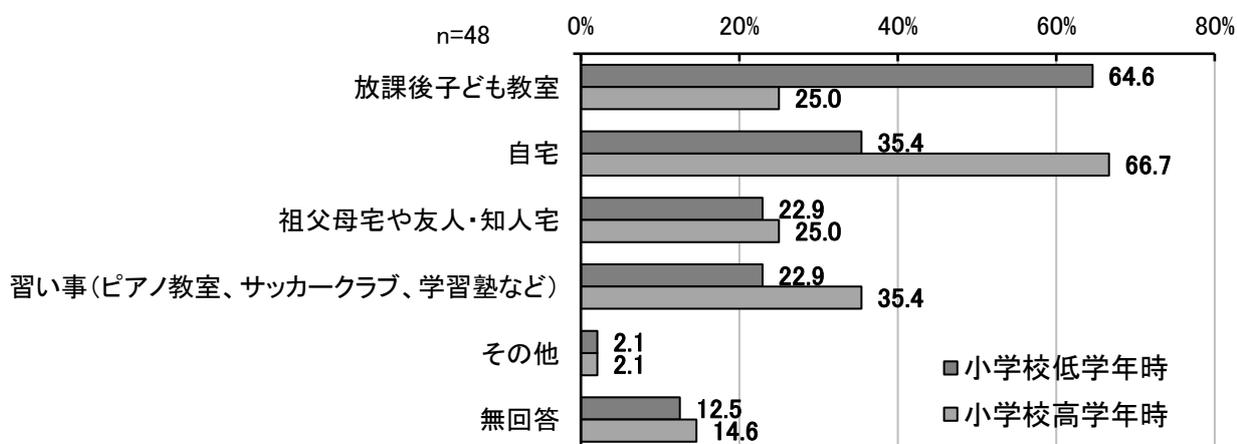
- ・未就学児童では、小学校低学年時は「放課後子ども教室」64.6%、「自宅」35.4%、小学校高学年時は「自宅」66.7%、「習い事」35.4%といった場所で過ごさせたいと考えられています。

### ○小学生児童が放課後過ごしている場所

- ・「自宅」69.2%、「習い事」、「放課後子ども教室」26.9%となっています。

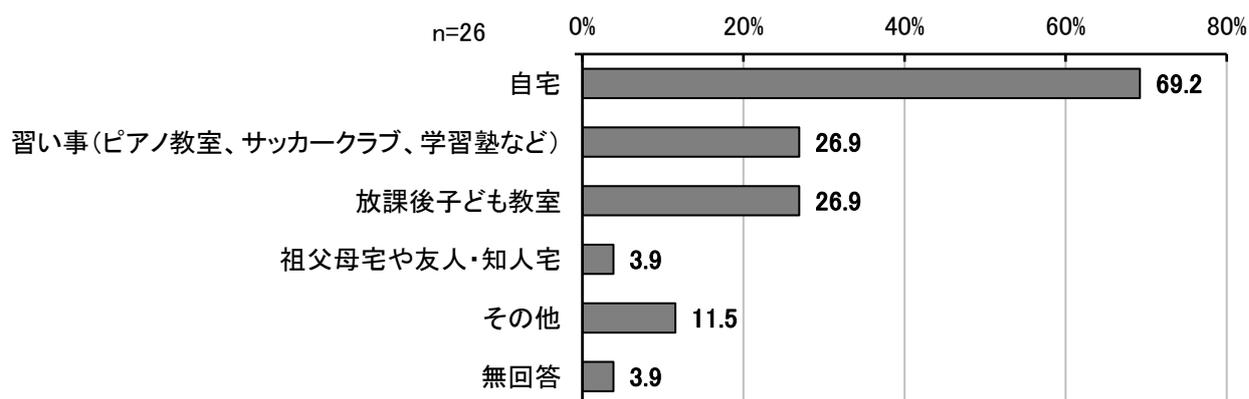
問 放課後（平日の小学校終了後）をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。  
（複数回答）

※未就学児童のみ



問 放課後（平日の小学校終了後）どのような場所で過ごしていますか。（複数回答）

※小学生児童のみ



○放課後の居場所のニーズ（未就学児の意向）

小学校低学年

- ・葉山地区と精華地区の「放課後子ども教室」のニーズは70.0%となっています。
- ・中央地区の「放課後子ども教室」のニーズは56.3%となっています。  
→放課後子ども教室の利用ニーズが地区で異なっています。
- ・中央地区は「自宅」のニーズが50.0%となっています。

小学校高学年

- ・「自宅」のニーズが65.0%~70.0%と高くなっています。
- ・「放課後子ども教室」のニーズは25.0%~30.0%で、低学年に比べニーズは低くなっています。

○小学生児童の放課後の居場所の状況

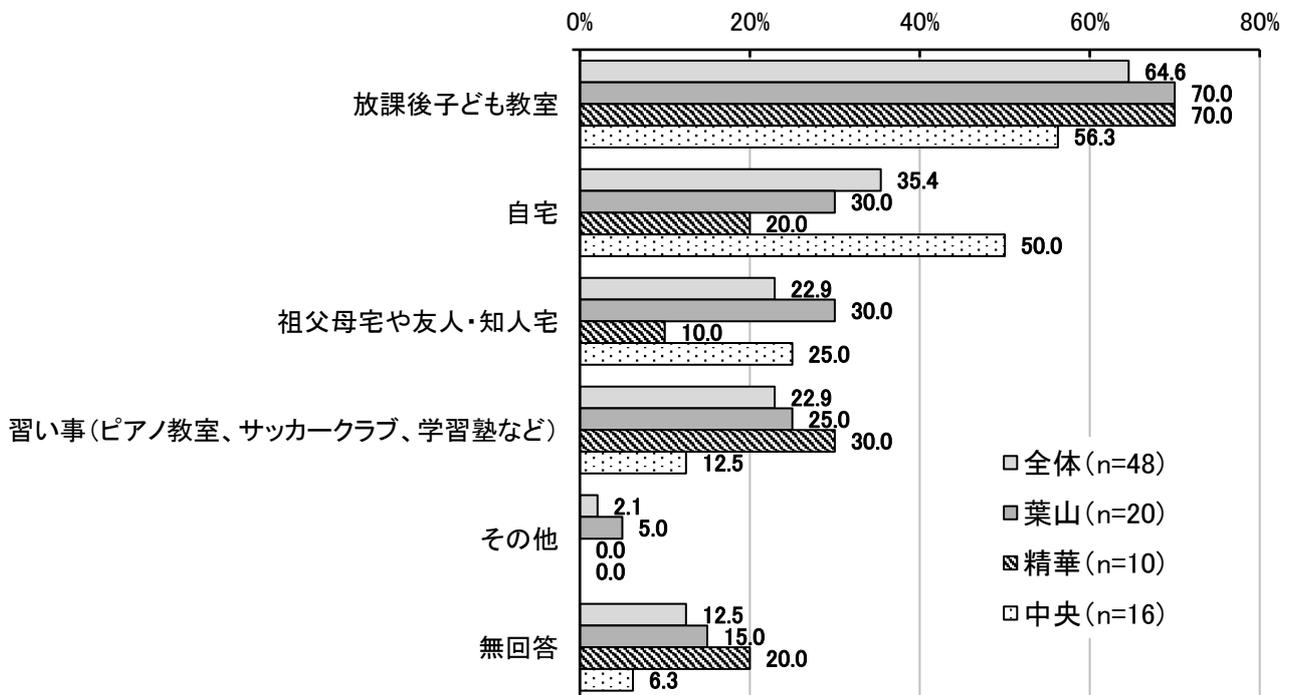
- ・精華地区と中央地区で「自宅」が100.0%となっています。
- ・葉山地区で「放課後子ども教室」が46.2%となっています。  
→現状の「放課後子ども教室」の利用よりもニーズが高くなっています。

問 放課後（平日の小学校終了後）をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

（複数回答）

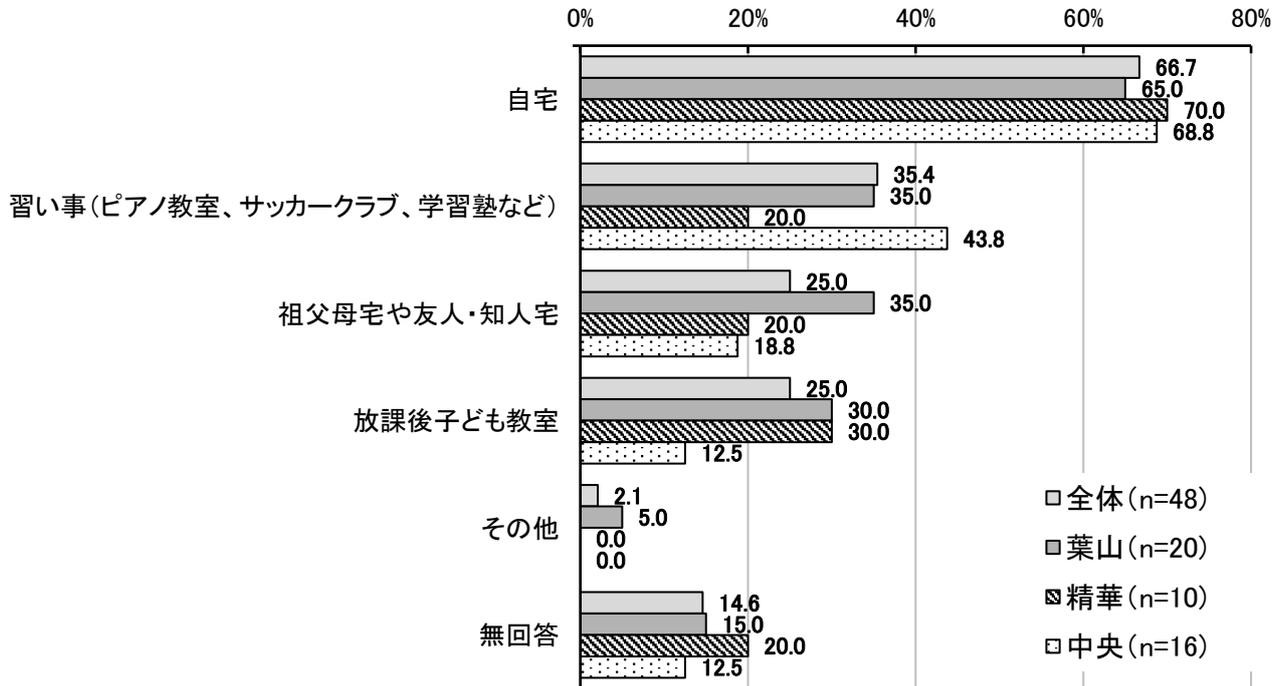
小学校低学年の（1～3年生）のうち

【未就学児童：全体・地区別】



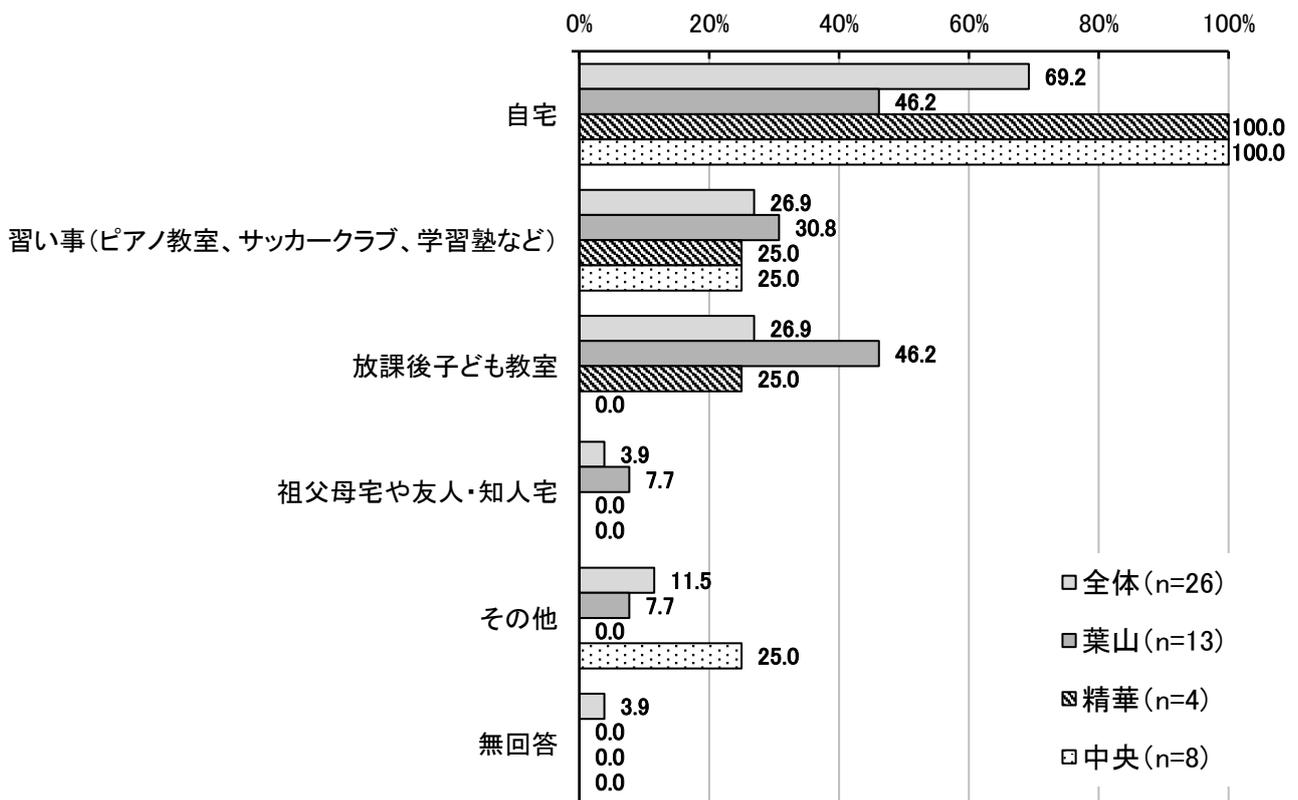
小学校高学年（4～6年生）になったら

【未就学児童：全体・地区別】



問 放課後（平日の小学校終了後）どのような場所で過ごしていますか。（複数回答）

【小学生児童：全体・地区別】



## 子育ての悩みについて

### ○子育てに関する悩み

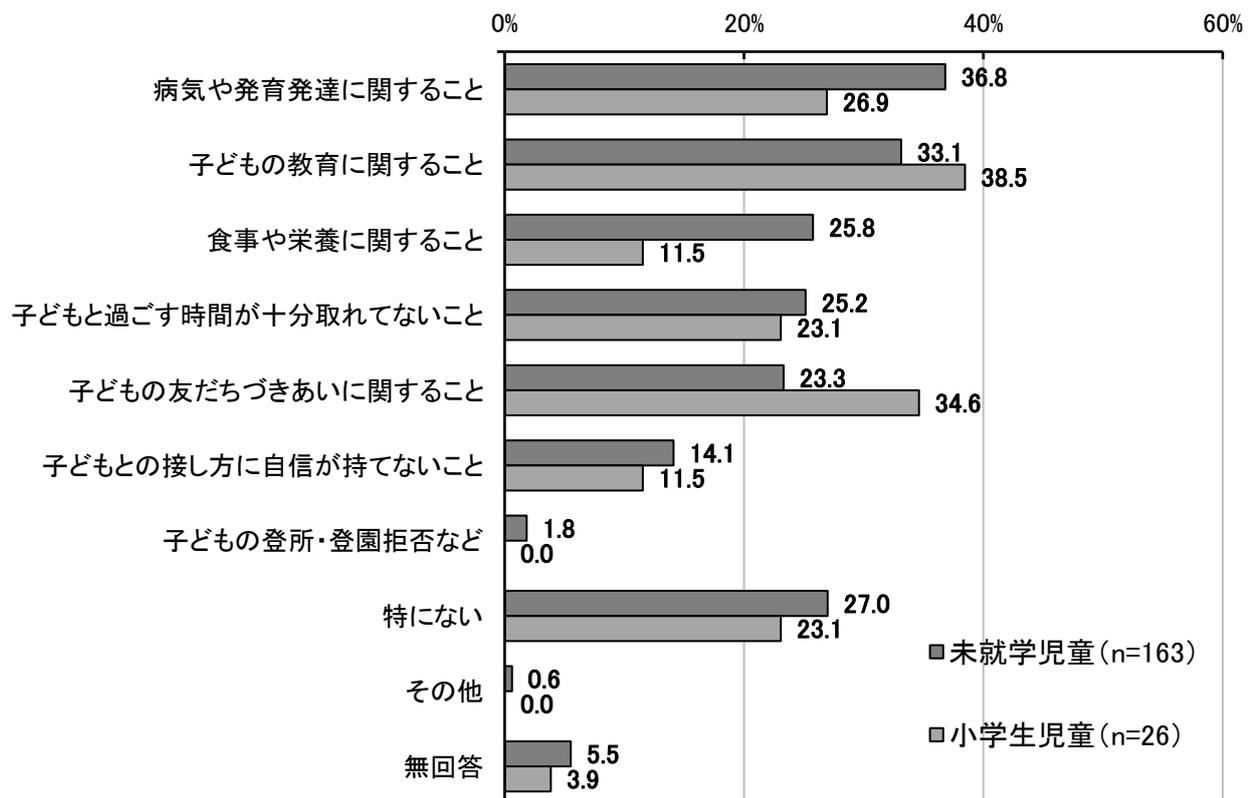
- ・「子どもに関すること」では未就学児童、小学生児童共通での悩みとして「病気や発育発達に関すること」、「子どもの教育に関すること」があげられています。
- ・また、未就学児童では「食事や栄養に関すること」、小学生児童では「子どもの友だちづきあいに関すること」が目立っており、子どもの成長段階に応じた悩みの状況がみてとれます。
- ・「ご自身に関すること」では未就学児童、小学生児童ともに子育てにかかる出費や自分の時間が取れないこと、子育ての疲れやストレスが大きいことが悩みとして挙げられています。

問 子育てに関して、日常悩んでいること、あるいは気になることは何ですか。

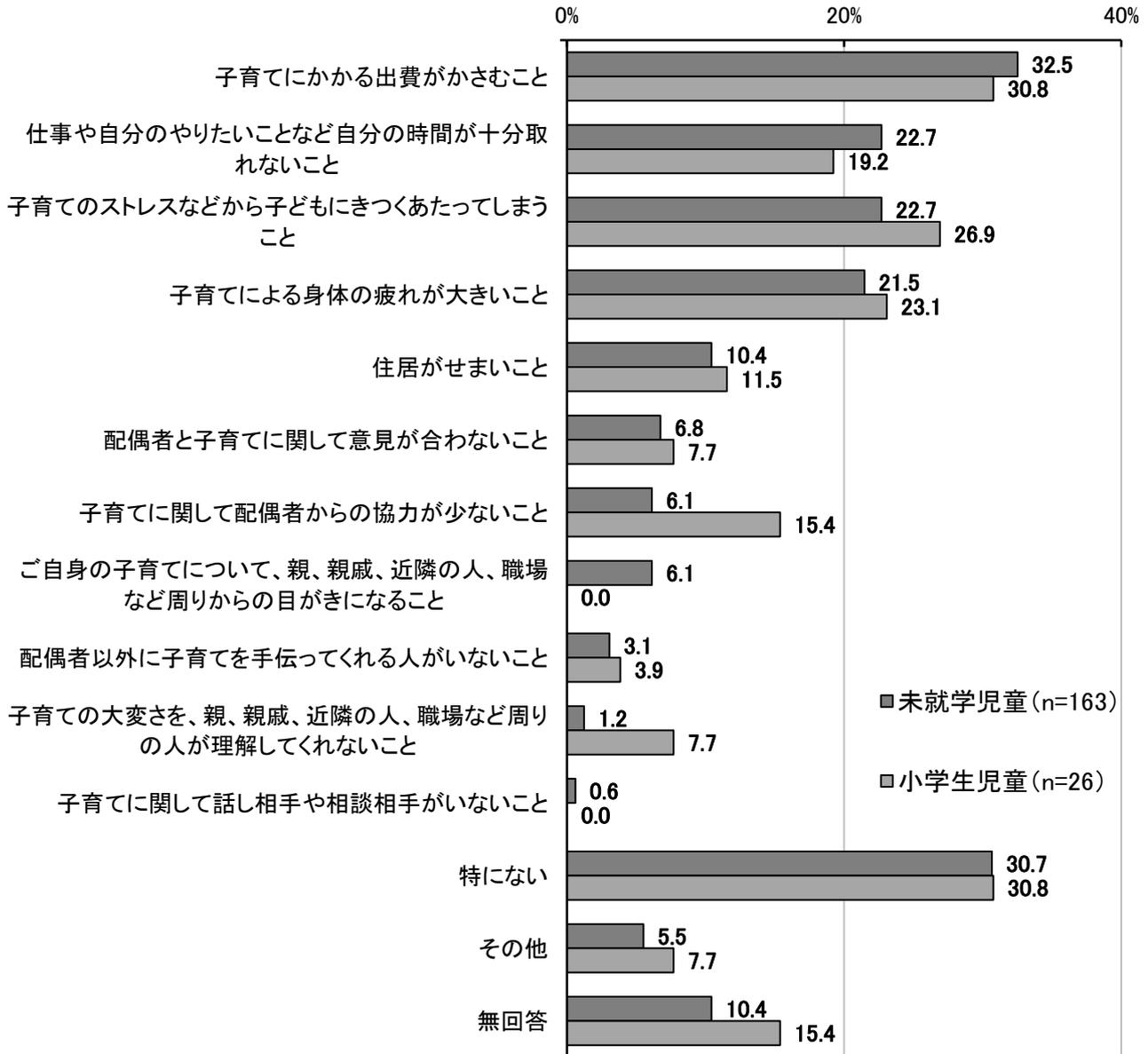
(複数回答)

【未就学児童・小学生児童】

#### (1) 子どもに関すること



(2) ご自身に関すること



## 津野町の子育て全般について

### ○少子化抑制に対して効果的と思われる施策や事業

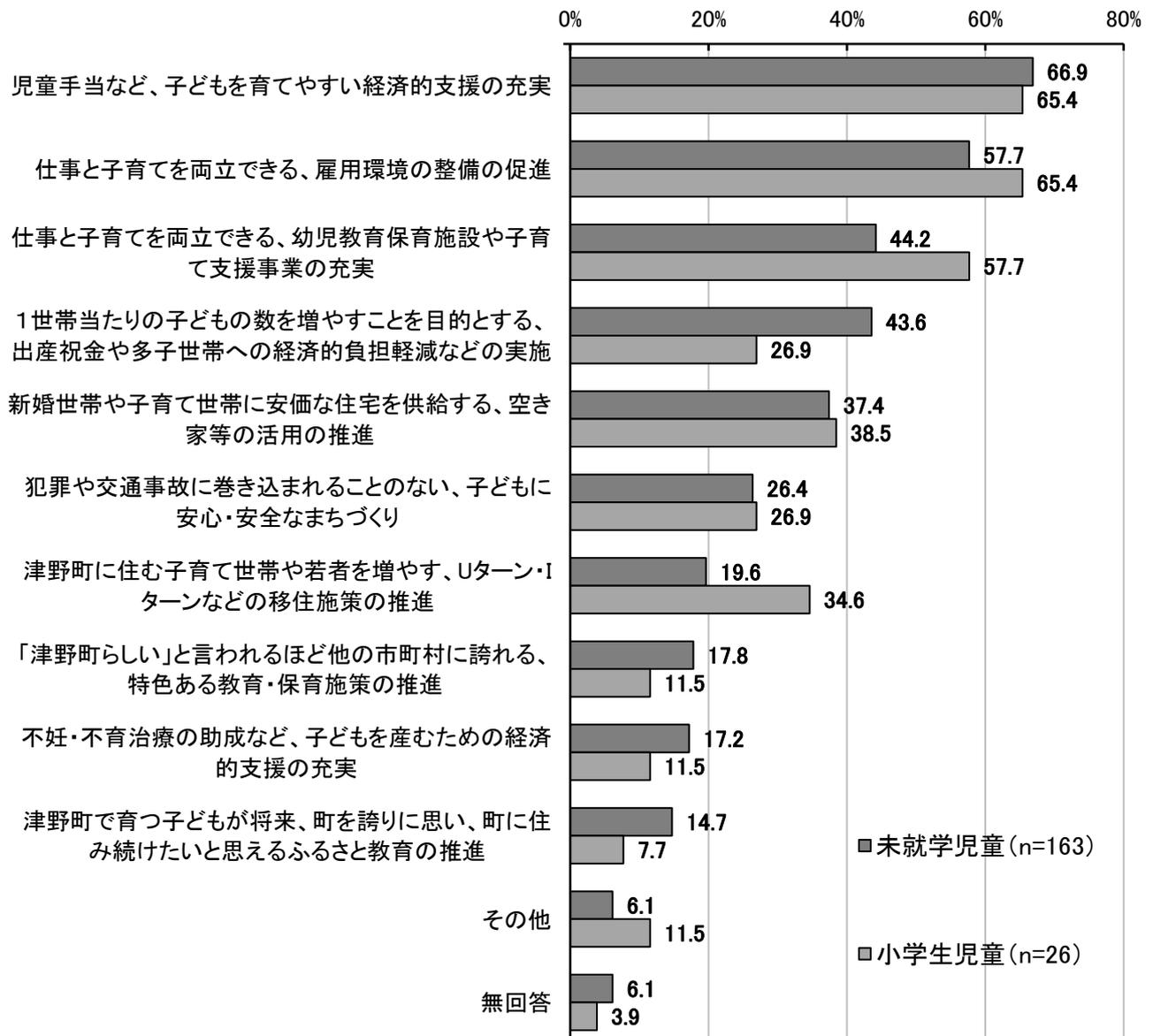
- ・未就学児童、小学生児童ともに経済的支援の充実や仕事と子育ての両立を可能とする環境整備に対する関心が高い状況がみてとれます。
- ・また、未就学児童と小学生児童を比較すると、未就学児童では経済的負担軽減に関すること、小学生児童では移住施策の推進に関することが目立っています。

### ○町に期待する子育て支援の充実

- ・「公園や歩道など、安心・安全な遊び場やインフラの整備」、「児童手当、子ども医療費助成など、子育て世帯への経済的支援の充実」が突出して高くなっています。

問 津野町の少子化を抑止するために効果的と思われる施策や事業について、どのよう  
にお考えですか。（複数回答）

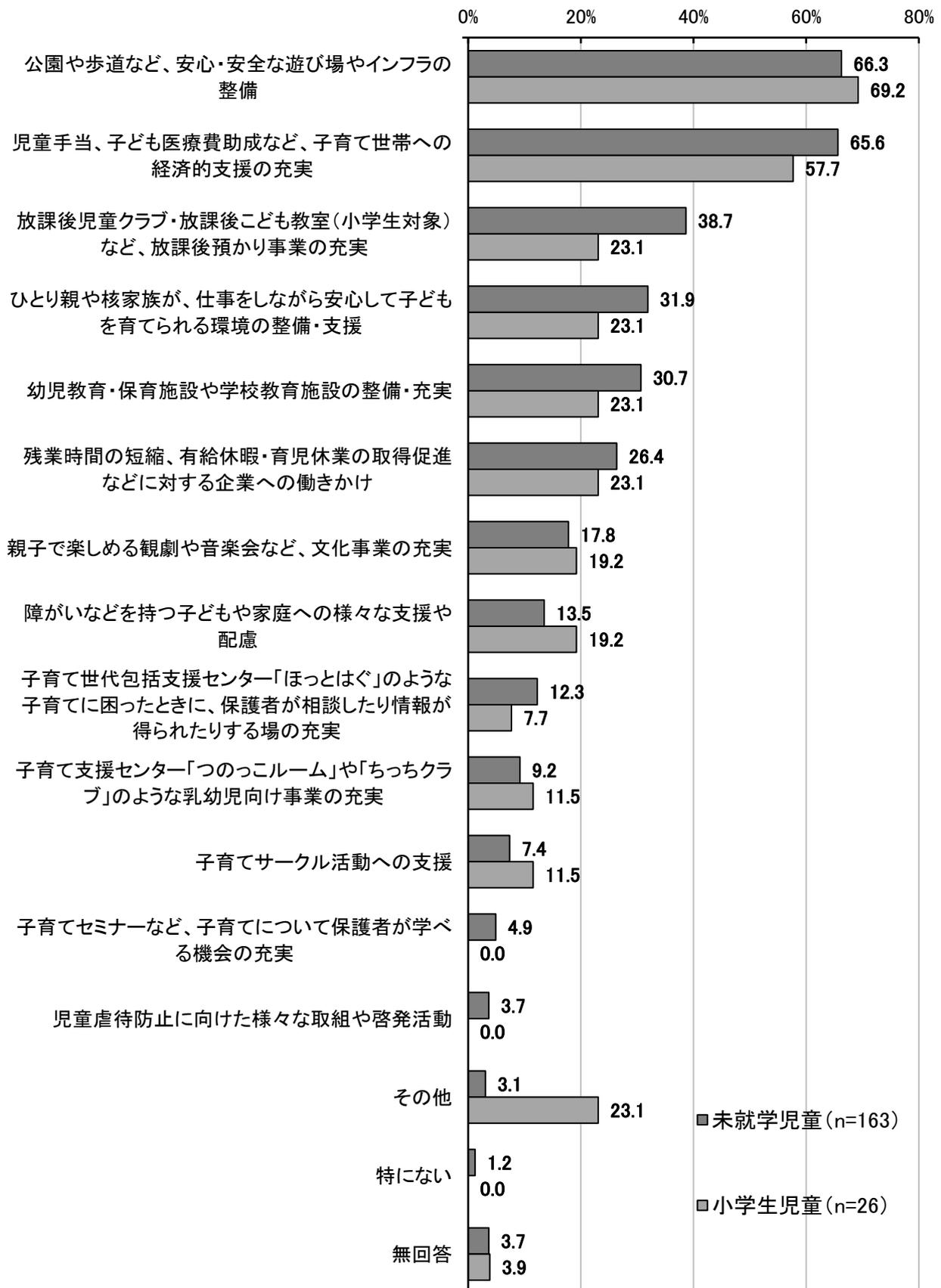
### 【未就学児童・小学生児童】



問 津野町に、どのような子育て支援の充実を図ってほしいと期待していますか。

(複数回答)

【未就学児童・小学生児童】

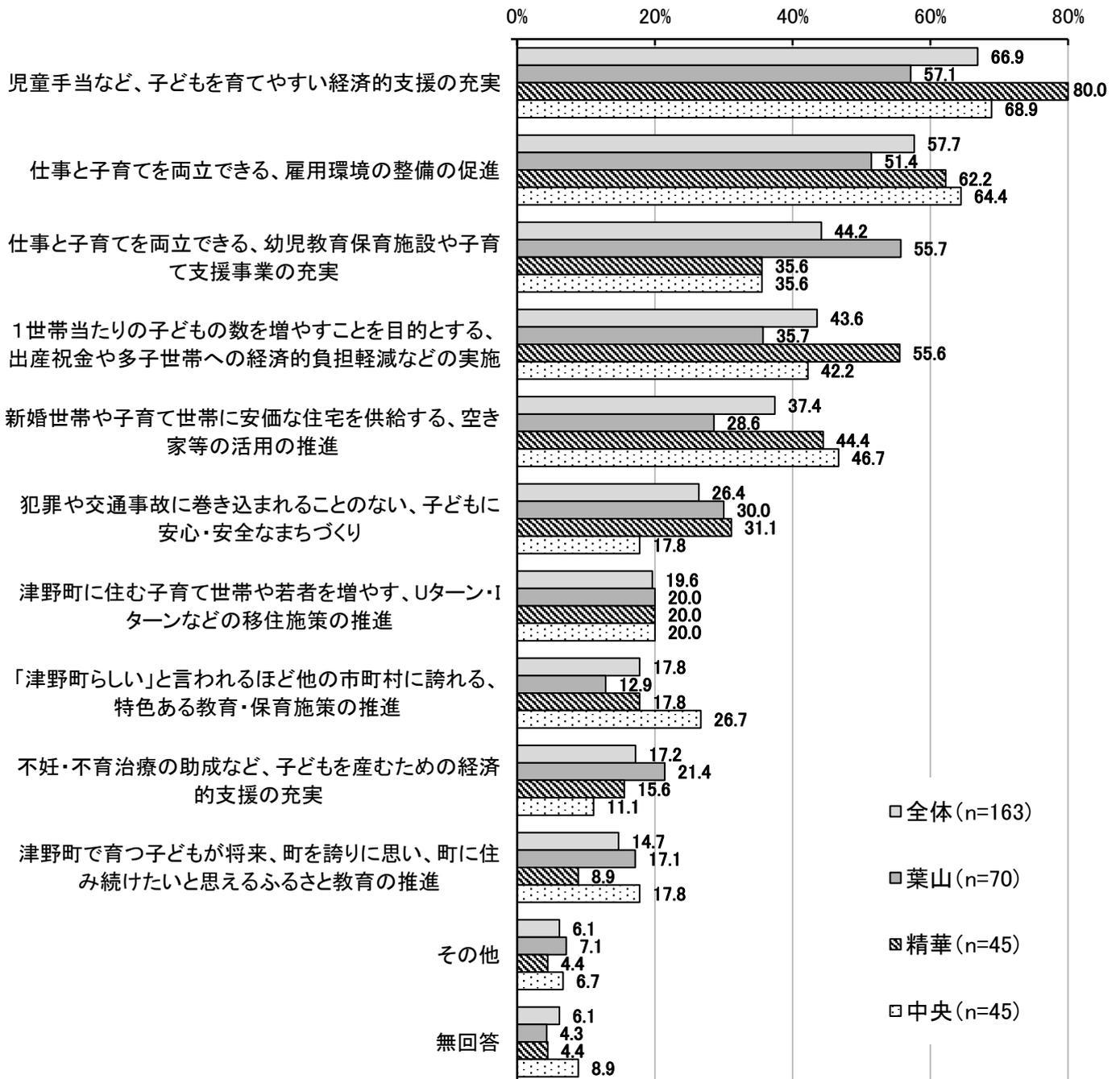


○少子化抑止のために効果的だと思う施策や事業

- ・地区別で見ると、経済的支援に関する項目で精華地区が他の地区より割合が高い傾向がみとれます。
- ・また、葉山地区で「仕事と子育てを両立できる、幼児教育保育施設や子育て支援事業の充実」が55.7%と高くなっています。

問 津野町の少子化を抑止するために効果的と思われる施策や事業について、どのよう  
にお考えですか。(複数回答)

【未就学児童：全体・地区別】

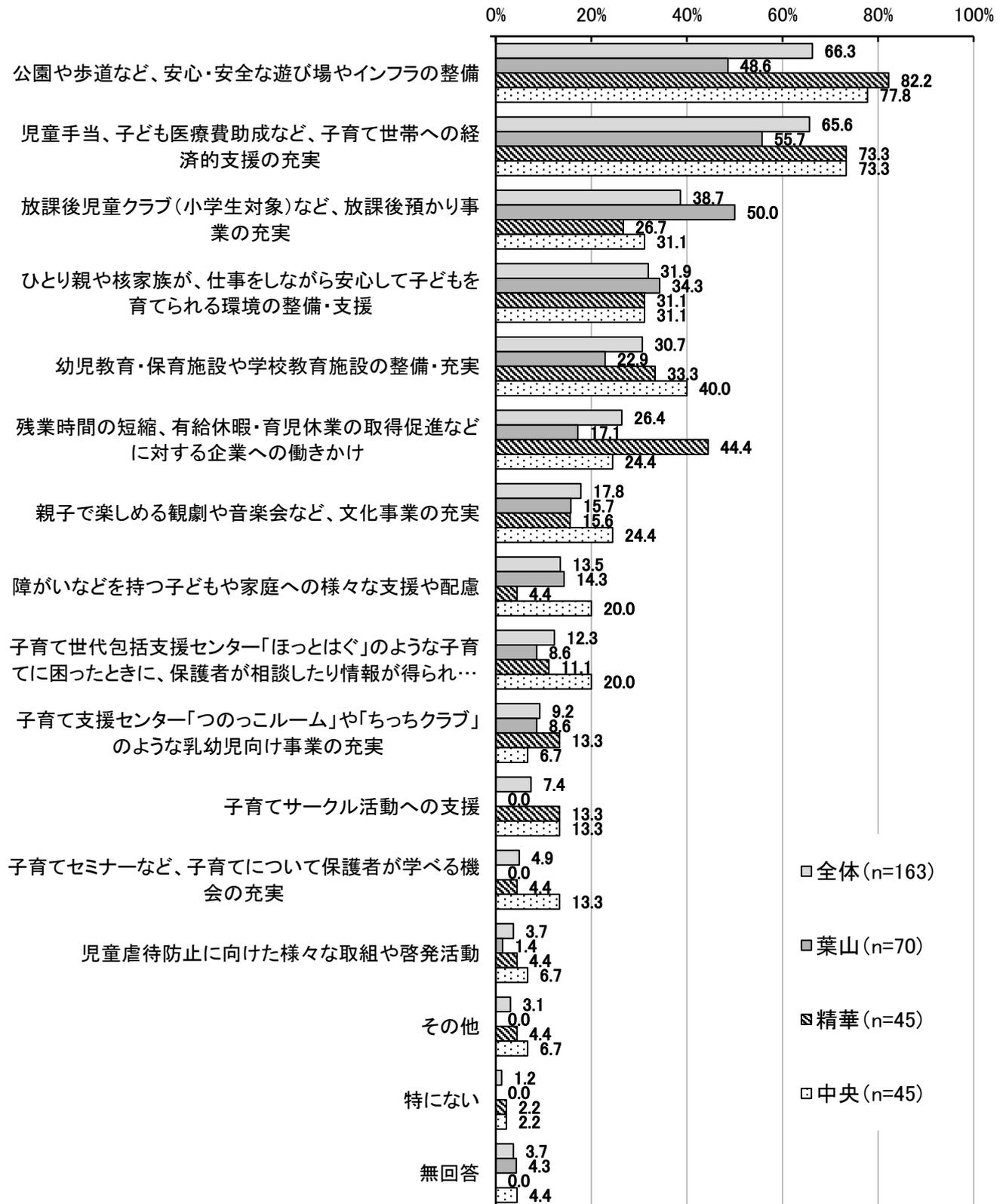


問 津野町に、どのような子育て支援の充実を図ってほしいと期待していますか。(複数回答)

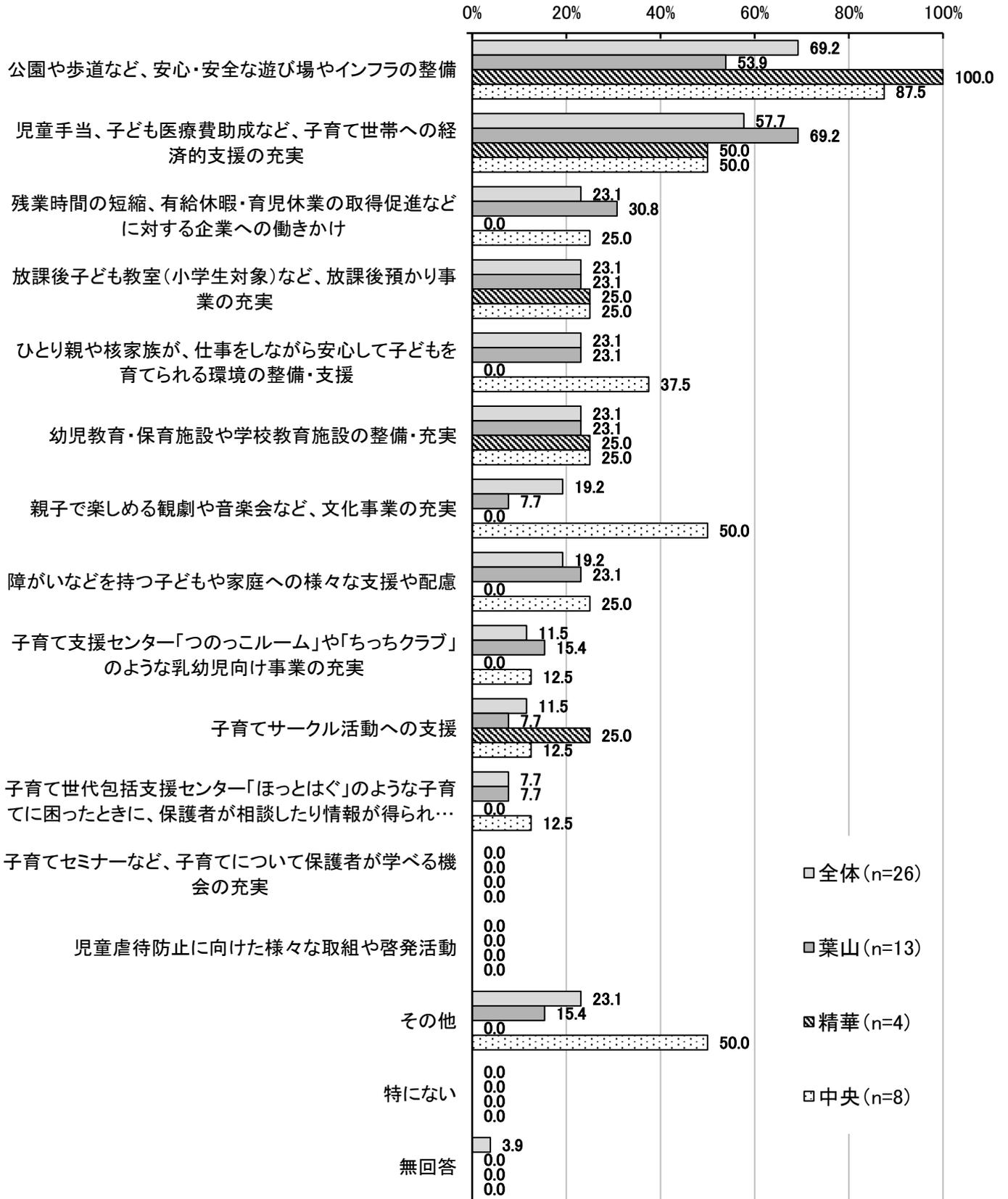
○充実を期待する支援

・地区別でみると、「公園や歩道など、安心・安全な遊び場やインフラの整備」で葉山地区と精華・中央地区の差が大きく、環境整備に差がある状況がうかがえます。

【未就学児童：全体・地区別】



【小学生児童：全体・地区別】



## (2) 子どもの生活状況調査

### ■ 調査の目的

本調査は、「第3期津野町子ども・子育て支援事業計画」の基礎資料として、子育ての実情やお子さんの生活状況を把握することを目的に、津野町内に居住している小学4～6年生と中学校1～2年生のいる家庭を対象にアンケート調査として実施しました。

### ■ 調査概要

調査地域	津野町全域	
調査期間と対象者	調査期間	令和6年2月1日～令和6年2月16日
	小学生	津野町内小学校の4～6年生
	中学生	津野町内中小学校の1～2年生
	保護者	上記小・中学校児童生徒の保護者
抽出方法	調査対象者の全数調査	
調査方法	小学生：学校配布・回収 中学生：学校配布・回収 保護者：学校配布・回収	
配布数	小学生：119件	中学生：87件 保護者：206件
回収数・率	小学生：113件・95.0% 中学生：79件・90.8% 保護者：190件・92.2%	

- ・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。このことは、本報告書の分析文章、グラフ及び表においても反映しています。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフ及び表中に「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・グラフ及び表中のn（number of case）は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を現しています。

## ■ 調査結果

本調査では、保護者・子供の生活状況について、全国調査結果から導き出された実態と比較し、津野町の現状を分析しています。追加資料として、「等価世帯収入」の水準と「親の婚姻状況」別に比較分析を行いました。

分析の結果、

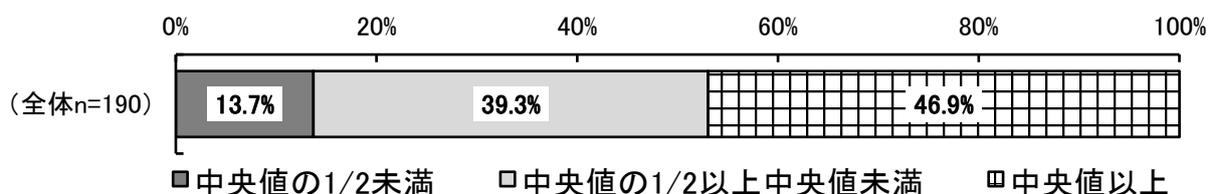
- 世帯収入の水準や親の婚姻状況によって、子供の学習・生活・心理など様々な面が影響を受けていた。
- 特に「等価世帯収入が中央値の2分の1未満」のもっとも収入が低い世帯及び「等価世帯収入が中央値の2分の1以上だが中央値未満」の世帯や、ひとり親世帯が、親子ともに多くの困難に直面している。

上記の現状がわかりました。

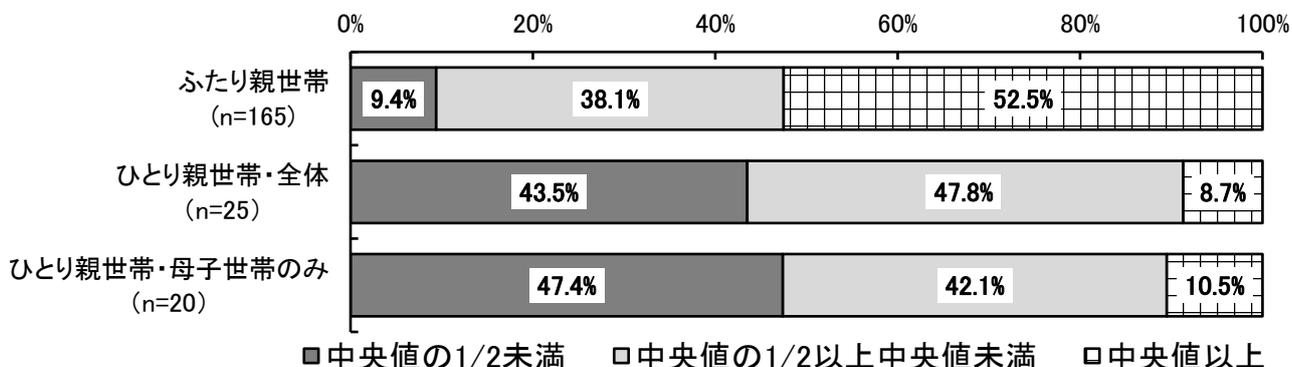
### ◎等価世帯収入の算出結果

分類		津野町	国
中央値となる等価世帯収入		258.1万円	317.5万円
中央値の2分の1となる等価世帯収入		129.1万円	158.8万円
中央値の2分の1未満	貧困の課題あり	13.2%	12.9%
中央値の1/2以上中央値未満	貧困の課題を抱えるリスクあり	36.7%	36.9%
中央値以上		50.1%	50.2%

### ・津野町の等価世帯収入の水準



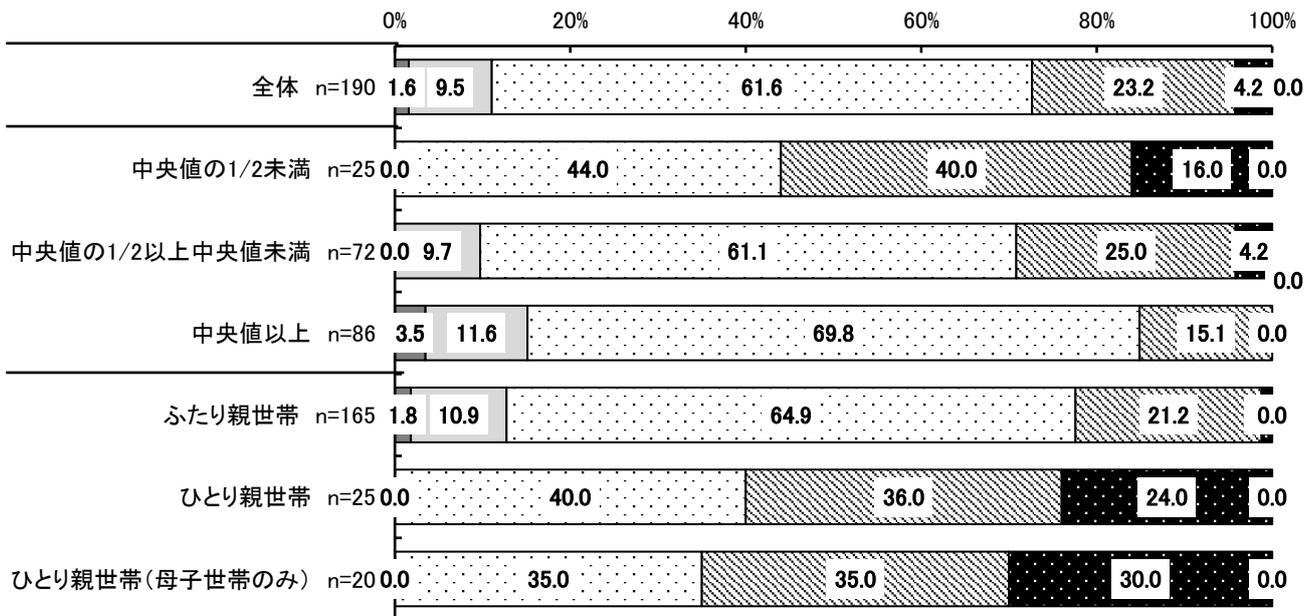
### ・津野町の世帯の状況別、等価世帯収入の水準



## ●現在の暮らしの状況について

「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、もっとも収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、全体の2倍以上に及んだ。

- ・(全体) 苦しい+大変苦しい=27.4%
- ・(中央値の1/2未満) 苦しい+大変苦しい=56.0%
- ・(ひとり親) 苦しい+大変苦しい=60.0%



□大変ゆとりがある □ゆとりがある □ふつう □苦しい ■大変苦しい ■無回答

## ●食料・衣類が買えなかった経験や公共料金の未払いについて

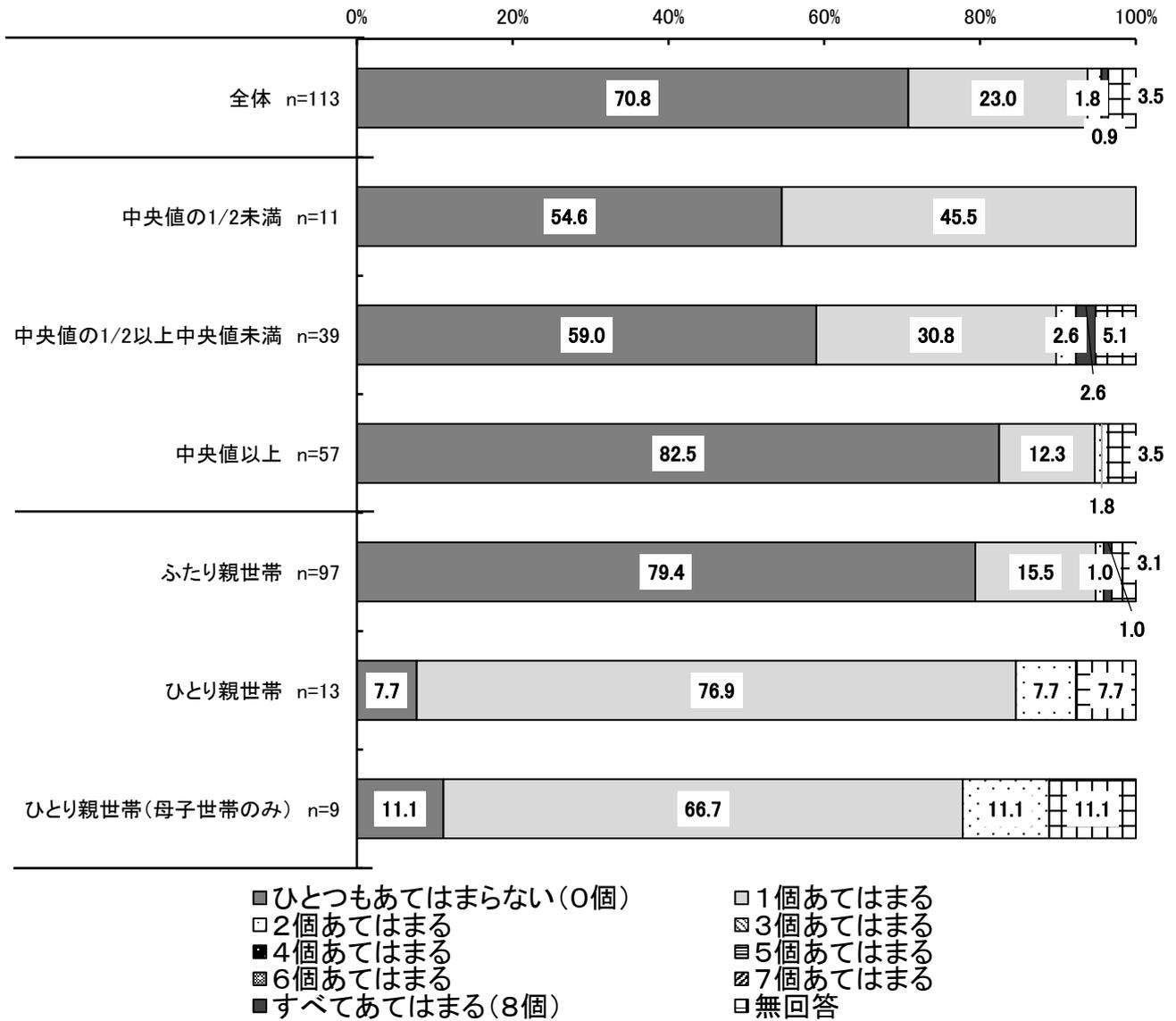
収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」が発生する割合が高い。

- 食料
- ・(全体) よくあった+ときどきあった=6.3%
  - ・(中央値の1/2未満) よくあった+ときどきあった=16.0%
  - ・(ひとり親) よくあった+ときどきあった=24.0%
- 衣類
- ・(全体) よくあった+ときどきあった=6.4%
  - ・(中央値の1/2未満) よくあった+ときどきあった=24.0%
  - ・(ひとり親) よくあった+ときどきあった=28.0%
- 公共料金
- ・(全体) 電気、水道、ガスのいずれか一つ以上未払=5.8%
  - ・(中央値の1/2未満) 電気、水道、ガスのいずれか一つ以上未払=10.4%
  - ・(ひとり親) 電気、水道、ガスのいずれか一つ以上未払=12.0%

## ●こどもの心理面への影響について

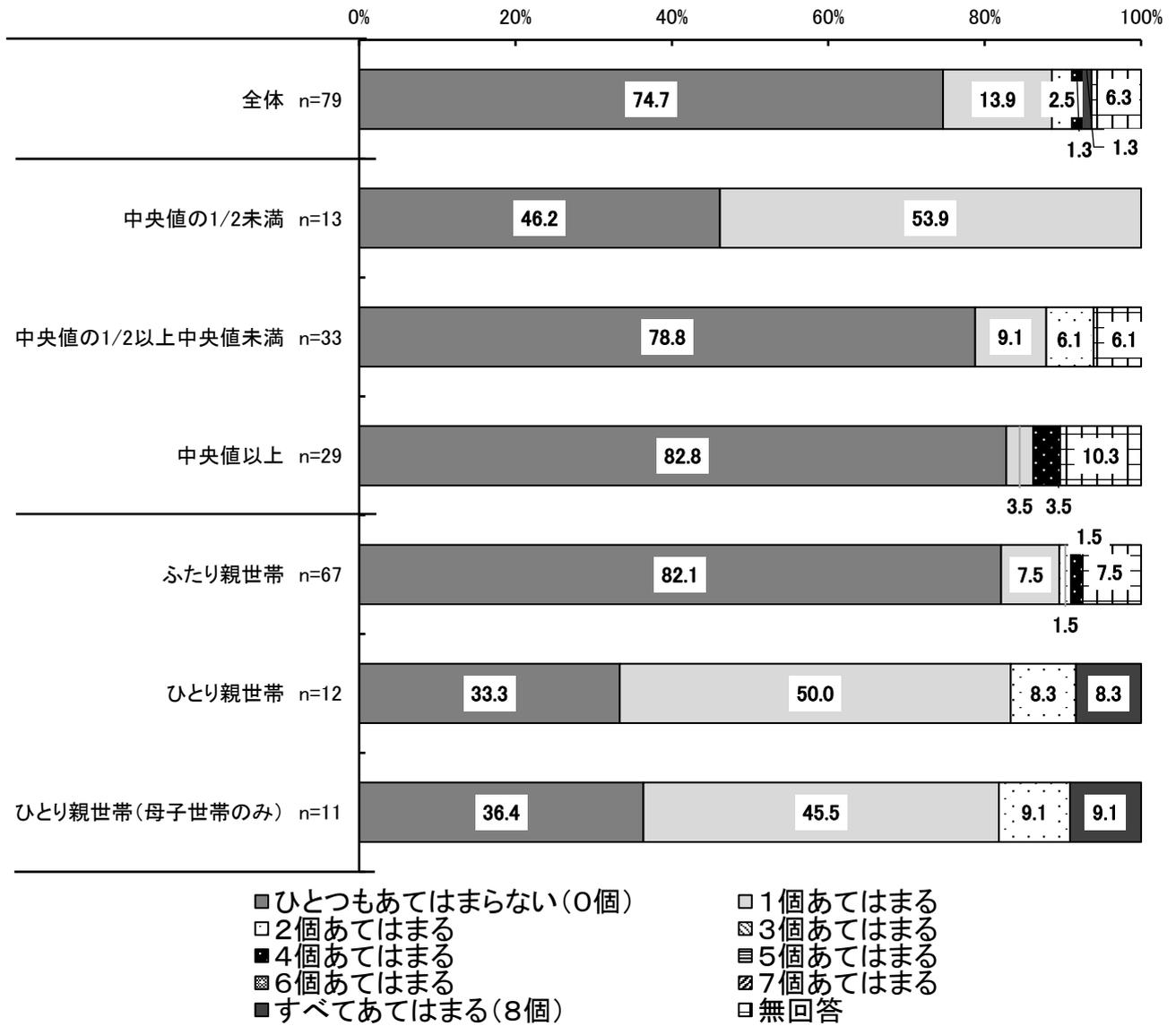
(小学生の回答)

収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、子どもの心理面に影響を与えている項目(1個以上)が、全体に比べ増えている。



(中学生の回答)

収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、子どもの心理面に影響を与えている項目(1個以上)が全体に比べ増えている。



●生活の満足度について

表内の着色は、全体の割合よりも高い割合を示した箇所に着色している。(横方向にみる)

(小学生の回答)

中央値の 1/2 以上中央値未満世帯の小学生は、満足度が低い傾向にある。しかし、最多回答は満足度 10 である。ひとり親世帯の小学生は、満足度が低い傾向にあるものの、最多回答は満足度 10 である。

	全体 n=113	中央値の 1/2 未満 n=11	中央値の 1/2 以 上中央値未満 n=39	中央値以上 n=57	ふたり親世 帯 n=97	ひとり親世 帯 n=13	ひとり親 世帯(母 子世帯の み) n=9
0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	2.7	0.0	2.6	3.5	3.1	0.0	0.0
4	6.2	0.0	10.3	5.3	5.2	15.4	22.2
5	16.8	18.2	25.6	8.8	15.5	15.4	11.1
6	8.0	18.2	2.6	10.5	6.2	23.1	33.3
7	8.0	0.0	7.7	10.5	9.3	0.0	0.0
8	12.4	18.2	12.8	10.5	13.4	7.7	0.0
9	12.4	9.1	5.1	15.8	12.4	15.4	0.0
10	32.7	36.4	33.3	33.3	34.0	23.1	33.3
無回答	0.9	0.0	0.0	1.8	1.0	0.0	0.0

(中学生の回答)

中学生は、収入の低い世帯の満足度が低い傾向を示した。ひとり親世帯については最多回答が満足度8であった。

	全体 n=79	中央値の 1/2 未満 n=13	中央値の 1/2 以 上中央値未満 n=33	中央値以上 n=29	ふたり親世 帯 n=67	ひとり親世 帯 n=12	ひとり親 世帯(母 子世帯の み) n=11
0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	2.5	0.0	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0
4	6.3	0.0	3.0	13.8	4.5	16.7	18.2
5	24.1	38.5	27.3	17.2	25.4	16.7	18.2
6	6.3	7.7	3.0	6.9	6.0	8.3	9.1
7	10.1	30.8	9.1	3.5	10.5	8.3	9.1
8	24.1	23.1	30.3	20.7	20.9	41.7	36.4
9	8.9	0.0	9.1	13.8	10.5	0.0	0.0
10	15.2	0.0	12.1	20.7	16.4	8.3	9.1
無回答	2.5	0.0	0.0	3.5	3.0	0.0	0.0

(親の回答)

中央値の 1/2 未満及び中央値の 1/2 以上中央値未満世帯は、満足度が低い傾向を示した。ひとり親世帯は、満足度が低い傾向を示している。

	全体 n=190	中央値の 1/2 未満 n=25	中央値の 1/2 以 上中央値未満 n=72	中央値以上 n=86	ふたり親世 帯 n=165	ひとり親世 帯 n=25	ひとり親 世帯(母 子世帯の み) n=20
0	2.6	12.0	2.8	0.0	0.6	16.0	20.0
1	0.5	0.0	1.4	0.0	0.0	4.0	5.0
2	3.7	8.0	0.0	5.8	3.6	4.0	5.0
3	6.8	4.0	6.9	4.7	6.1	12.0	15.0
4	5.8	16.0	5.6	3.5	6.7	0.0	0.0
5	17.9	20.0	22.2	15.1	18.2	16.0	0.0
6	4.7	16.0	2.8	3.5	3.6	12.0	15.0
7	22.1	12.0	20.8	27.9	23.6	12.0	15.0
8	19.5	4.0	23.6	19.8	20.0	16.0	15.0
9	5.3	0.0	5.6	7.0	6.1	0.0	0.0
10	9.5	0.0	8.3	11.6	10.3	4.0	5.0
無回答	1.6	8.0	0.0	1.2	1.2	4.0	5.0

### 3 こども・若者・子育て世代意見聴取

#### (1) 子育て世代の意見聴取「親子が happy に暮らせるっておきプラン」

##### ■ 実施概要

津野町にお住まいの園児・児童生徒の保護者を対象に、津野町での暮らしや子育てについて町職員と共に考えるワークショップを開催し、子育て当事者の目線からみた現状と課題を聴き取りました。

##### ■ 結果のまとめ

###### (こどもの居場所・遊び場について)

- ・ 放課後、特に長期休暇中の「居場所」に不安や困りごとがあり、その対応に保護者がストレスを感じている。有料でもいいので習い事などこどもが過ごせる場所、その選択肢がほしい。
- ・ 姫野々地区には里楽プール、かわうそ図書館など、こどもが遊べる場所があるが、他の地区には遊べる場所が不足している。地域間での差がみられる。
- ・ 夏休み期間はコミュニティバスを利用し、こどもだけでの移動が可能であるが、学校がある平日は家でこども一人で留守番をさせることが多い。

###### (暮らしと子育てについて)

- ・ 暮らしや子育てに関する情報について、移住者はもちろん、町内で暮らしている人でも知らないことが多い。情報を知ってもらうことで解決する課題もあるため、情報発信に関する取組の強化が必要である。
- ・ 空き家を補修、リノベーションするなどして住宅(特に戸建て)を増やすことで移住・定住に繋がる。
- ・ 給食費の無償化等、まずは段階的でもよいので経済的な支援があれば、津野町でより暮らしやすく、子育てもしやすくなる。

###### (その他)

- ・ 地区の行事は子育て世帯にとって優先順位が低く、仕事や家庭を優先せざるをえない状況である。
- ・ 園や学校からの情報、お便りがアプリ等で確認できれば便利であると感じる。
- ・ こどもが病気やケガをした際は父母のどちらかが仕事を休むほかなく、負担が大きい。
- ・ 町内に働く場所が少なく、親は町外で仕事をし、こどもは町内で過ごすというずれが起きており、不安である。

## (2) 若者の意見聴取「ツノワカモノワールドカフェ」

### ■ 実施概要

津野町職員および津野町にお住まいの18歳～30代の19名を対象にワールドカフェスタイルを採用した意見交換の場を設け、若者の居場所や結婚観・子育て観についてのイメージ・想いを聴き取り、その内容を課題として整理しました。

### ■ 結果のまとめ

#### テーマ①「若者の居場所について」

(自分らしく過ごせる場所)

- ・公的空間では、「体育館」、「カラオケ」、「居酒屋」、「カフェ」、「本屋」、「雑貨屋」、「ショッピング」、「ゲームセンター」、私的空間では「自宅」、「祖父母の家」、「友達の家」、「車内」などが挙げられた。
- ・公的空間の項目については、居酒屋など町内に位置するものもあれば、町外に行かないと過ごすことができない場所もある。

(どんな居場所があれば、住み続けたい津野町として希望を持てるか)

- ・全体に関する視点では、「働ける場所があること」、「歳をとっても仲良く集まれる場所があること」、「同世代の人が多くいること」などが挙げられた。
- ・若者、こども、親に関する視点では「若者が交流できる場所やスポーツなどのイベントがあること」、「若い世代の親同士が関われる居場所があること」、「こどもづれで行けるお店や場所があること」などが挙げられた。
- ・また、その他(居場所以外の視点)では、「単身・独身にも優しいまちであること」、「発達支援が充実していること」などが挙げられた。

→公的空間の居場所の項目については、民間事業者の出店意向による部分が大きく、また津野町は中山間に位置していることから活用できる土地も少ないため、例えば何か新しく大きな施設を建てるといったことも難しい状況である。

→そのため、若者の居場所づくりにおいては、既存の施設やお店等を活用するという視点で、「どんな居場所があれば、住み続けたい津野町として希望を持てるか」にあるような、スポーツイベントの実施や日頃から交流できる場所を整備し、居場所づくりに取り組む必要があると考えられる。

## テーマ②「結婚観・子育て観について」

(結婚に対するイメージ・思い)

- ・プラスの意見では、「生活が充実する」、「結婚してよかった」、「30歳までにはしたい気持ちがある」、「一人で最後を迎えたくないから結婚したい」、「助け合って暮らしていくことができる」、「寂しさを脱却することができる」、マイナスの意見では「自分の時間が少なくなる」、「ハードルが高いと感じる」、「夫婦関係を面倒に感じる」、「お金が必要」などが挙げられた。

(子育てに対するイメージ・思い)

- ・プラスの意見では、「プライベートが充実する」、「こどもの成長を見られることは嬉しい」、「こどもも親も成長できる」、「休日の楽しみが増える」、「活力や元気をもらえる」、「未来への投資」、マイナスの意見では「自分の時間が減る」、「仕事とプライベートの両立が難しい」、「お金がかかる」などが挙げられた。

(どんな津野町だったら子育てに希望が持てるか)

- ・人に関する視点では、「他人でもおかえり、ただいまが言えるような関係性があること」、「子育てについて、理解し合えるママ友などの育児仲間がいること」、「周りの人が、こどもや親に対して寛容で優しく理解があること」などが挙げられた。
- ・施設に関する視点では「病院が近くにあり、病児保育の体制があること」、「親が安心できるこどもの居場所や遊びまわれる場があること」、「こども用品を買えるお店があること」などが挙げられた。
- ・制度に関する視点では、「給食費や学費の免除があること」、「ランドセルや制服に関する補助や支給の制度があること」、「ファミリー・サポートの支援があること」などが挙げられた。

→結婚や子育てに対するイメージとして、「自分の時間が少なくなる」というマイナスな意見が各テーブルで挙がっていた。結婚や子育てによって、今まで自分の時間を使ってできたことが制限されることを心配していると考えられる。

→また、津野町には産婦人科や小児科の医療機関がないほか、相談できる人や頼れる人が減ってきていること、そして町内に高校がないことで、高校生のお子さんと保護者の方にとって送迎等の負担が大きくなっていることが現状の課題として挙げられた。

→それらを踏まえた「どんな津野町だったら子育てに希望が持てるか」においては、給食費の無償化など経済的支援や、公園等の遊べる場所の充実、子育てについて相談や理解し合える育児仲間のコミュニティがあることなどが挙げられており、これらの意見をもとに今後の津野町として子育て支援を検討していく必要がある。

### (3) 中学生の意見聴取「私たちの思い、ちょっと聞いてくだサミット！」

#### ■ 実施概要

町内の中学生の代表として、東津野中学校生徒会、葉山中学校生徒会と町長および教育長が、中学生の津野町に対する意見等について直接対話を行う場を設けることで、こども計画ならびに今後の津野町のこども関連施策をより実効性のあるものにしていくことを目的とし、サミットを実施しました。両中学校の生徒会が中心となり、全校生徒から募集した意見をサミットに向けてまとめました。

#### ■ 意見のまとめ

##### (進学・将来の仕事について)

- ・ 津野町(高知県)では職業の選択肢が少ないため、職業選択の幅を広げるために町外、県外へ出ていくという考えが浸透している。そのため、はたらく場所や仕事を増やすことが必要である。
- ・ 進学、就職を含めた将来について、両中学校合同で話し合う場を設けることで、将来の選択の幅が広がる。
- ・ 将来について考える授業や、職業体験等の学校外などで体験できることを増やすことで、進路や就職の知識を学ぶことができ、津野町での就労がイメージできるようになる。

##### (若者が住みたいまちについて)

- ・ 挨拶が飛び交い、みんなが笑顔で過ごすことのできるまちに住みたい、町全体が明るく、町民全員が笑顔で暮らせる楽しいまちを目指してイベントを行うのがよい。
- ・ 現在津野町にはこどもが遊べる場所が少ないと感じる。運動施設を増やし、スポーツイベントを開催することで、こどもがスポーツに触れることのできる環境を充実させてほしい。
- ・ 交通手段について、町外に行くときは家族や親戚に送迎を頼らざるをえない状況である。バスの本数が豊富にあるなど、公共交通機関が使いやすいまちが理想である。
- ・ 豊かな自然を最大限活用した観光が盛んなまち

##### (津野町の課題について)

- ・ 津野町には土砂崩れ警戒区域が多く、災害時には大きな被害が予想される。実際に東津野中学校付近では台風の影響で土砂崩れが発生した。また、そのような状況であるにもかかわらず、東津野中学校は災害時の避難場所に指定されているため、不安である。補強工事等の対策が必要である。
- ・ 伝統・文化に関して、地域の祭りを知る人が少なくなり、保存会に入っている人も少なくなってきている。
- ・ 道路にゴミや大きな石が落ちていることが多く、通学中に危険を感じることもある。ゴミ問題については、不法投棄に対する規制を厳しくする等の対応が必要である。

## 4 課題

---

### ■子育て家庭への支援

- アンケート結果から、本町の女性の就業率は全国及び高知県平均よりも高い傾向にあり、女性の社会進出が進んでいることが分かります。アンケート調査結果からは、フルタイム勤務が半数以上を占めています。共働き・共育ての推進に向け、子育て家庭への更なる支援の充実が求められます。
- アンケート結果から、充実してほしい子育て支援について、公園などの遊び場の整備、子育て世帯への経済的援助を求める声も多くみられました。また、少子化抑止にあたり、子育て世帯への経済的援助と仕事と子育ての両立できる雇用環境の整備が6割を超えて挙げられています。子育て家庭の経済的な負担の軽減に関する取り組みを充実し、周知が必要です。

### ■こどもの健やかな育ちへの支援

- アンケート結果から、小学校の低学年時に放課後子ども教室で過ごさせたいニーズが64.6%あります。実際、放課後子ども教室の利用は26.9%となっていますので、保護者の仕事と子育ての両立の観点から利用のしやすさに応じた態勢の見直しが必要です。
- 津野町に住み続ける希望が持てる若者の居場所は、「歳をとっても仲良く集まれる場所があること」、「同世代の人が多くいること」などが挙げられています。誰もが交流できる居場所やイベントの取組みの検討が必要です。

## ■地域における子育て支援

- 共働き家庭等の増加により、放課後子ども教室の利用者の増加に備え、こどもが放課後を安全に過ごすために、適切な遊び及び生活の場を提供できるよう環境の整備を行うとともに、こどもの居場所づくりの強化が必要です。
- 昨今、こどもを巻き込んだ事故、犯罪の度重なる発生により、保護者の安心・安全に子育てできる環境への意識が高まっていることが考えられます。こどもの安全を確保するため、地域全体での見守り体制の充実や、通学時の道路や公園、関係施設の安全性の確保が必要です。

## ■こどもの経済面に関する支援

- 子どもの生活状況調査結果からは、世帯の経済状況が学習面、余暇活動等、こどもの生活に連動することが分かりました。世帯の経済状況によってこどもの生活が左右されないよう、生活格差を埋めるための取り組みの推進が必要です。
- 経済的に支援が必要な層では、中学生は授業時間以外の1日あたりの勉強時間が短く、結果として学習理解度の低下につながっていると考えられることから、生活習慣を整えるための施策が求められます。また、経済的に支援が必要な家庭ほど、塾に行きづらい状況があります。家族や親類以外の様々な大人や学校以外のともだちと接する機会の喪失は様々な経験の格差にもつながるため、居場所づくりのための取り組みの推進が必要です。
- 中学生の進学希望は、全体で高校までが21.5%、大学までが29.1%となっていますが、経済的に支援が必要な層では、大学までが18.2%~23.1%、世帯収入が多い層では大学までが48.3%と格差が見られます。一方保護者の回答は、ひとり親の母子世帯では大学までが45.0%、二人親世帯では33.9%となっています。こどもの修学の希望への経済的な支援が求められています。